

建築工事特記仕様書

平成29年度 静岡県立総合病院
北安東2丁目 医師宿舎（仮称）建築工事（建築）

株式会社 高木滋生建築設計事務所
管理建築士 高木 一滋
一級建築士登録番号 第 285095 号

第 1 工事概要

- 1 工事名称 平成29年度静岡県立総合病院 北安東 2 丁目医師宿舎（仮称）建築工事
- 2 工事場所 静岡 市 葵 区 北安東 2 丁目 地内
- 3 敷地面積 356.38 m²
- 4 都市計画 ○ 都市計画区域内 ・ 準都市計画区域内 ・ 都市計画区域外
- 5 用途地域 ○ 線引 （○ 市街化区域 ・ 市街化調整区域） ・ 非線引
○ 第二種中高層住居専用地域
- 6 防火地域 ・ 防火地域 ・ 準防火地域 ○ 指定なし
- 7 その他の地域・地区 ○ 騒音規制法に基づく指定区域 （○ 1 種 ・ 2 種 ・ 3 種 ・ 4 種）
・ 風力係数算定のための地表面粗度区分 （・ II ○ III）
○ 風圧力算定のための基準速度 V₀=32 m/s
・ 積雪荷重 H12建設省告示1455号における区域 別表 （※ 24 ・ ）

8 建物概要

建物名称	構造・階数	工事種別	建築面積m ²	延べ面積m ²	備考
共同住宅	S 造 3 階	新築	210.07	464.59	
駐輪場	アルミ造 1 階	新築	2.25	4.55	

9 工事内容

1. 前記「8. 建物概要」に記載の建物の建築・電気設備及び機械設備工事一式
2. 上記 1 の附属外構工事一式

第 2 仕様

- 1 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(平成28年版)による。(以下「標準仕様書」という。)
なお、標準仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)(平成28年版)による。(以下「改修標準仕様書」という。)
- 2 電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、それぞれの特記を適用する。
- 3 設計図の内容に明記がない場合、又は相違ある場合は、原則として監督員の指示によるほか、次の優先順位により判定する。
(1)質問回答書((2)から(5)までに対するもの) (2)現場説明書 (3)特記仕様書
(4)図面 (5)標準仕様書・改修標準仕様書
- 4 特記仕様
(1)項目は、番号の前に○印のついたものを適用する。
(2)特記事項は、○印のついたものを適用する。
○印のつかない場合は※印のついたものを適用する。
○印と※印の付いた場合は、共に適用する。
(3)特記事項に記載の(. . .)及び[. . .]内の表示番号は、それぞれ「標準仕様書」及び「改修標準仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。
(4)「大規模地震対策特別措置法」による注意情報が発せられた場合、工事受注者は人身の保護及び安全な避難に必要な補強、落下防止等の保全措置を講ずるものとし、警戒宣言発令時には工事を中止する。また、この事実が発生した場合は、静岡県建設工事請負契約約款第26条(臨機の措置)によって処理されたものとする。
(5)[G] 印は「静岡県環境物品等の推進に関する基本方針」(以下「基本方針」という。)の公共工事に関わる特定調達品目を示す。
(6)標準仕様書で「特記がなければ、」以降に具体的な材料・品質性能・工法・検査方法等を明示している場合において、それらが関係法令(条例を含む)の改正等により抵触する場合には、関係法令等の遵守(1. 1. 13)の規定を優先する。

第3 電子納品等

- 1 納品の仕様等は電子納品運用ガイドラインによる。
- 2 貸与する設計図CADデータの有無 ※ 有り ・ 無し
- 3 貸与するCADデータの使用範囲
当該工事のために必要な施工図及び完成図の作成の範囲で利用できる。

1 章 一般共通事項

○1 適用基準等

- 建築工事標準詳細図 国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修(平成28年版)
- 工事写真の撮り方 建築編 国土交通大臣官房官庁営繕部監修(平成24年版)
 - ・ 建築物解体工事共通仕様書・同解説 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修(平成24年版)
- 土木工事共通仕様書

○2 工事実績情報の登録

(請負代金500万円以上の場合)※工事カルテ特記仕様書による (1.1.4)

○3 工事の一時中止

(1.1.9)

静岡県建設工事請負契約約款第20条の規定により工事の一時中止の通知を受けた場合は、中止期間中における工事現場の管理に関する計画書(以下「基本計画書」という。)を発注者に提出し、承諾を受けるものとする。

なお、基本計画書には、中止時点における工事の出来形、職員の体制、労務者数、搬入材料及び建設機械器具等の確認に関すること、中止に伴う工事現場の体制の縮小と再開に関すること及び工事現場の維持・管理に関する基本的事項を明らかにする。

また、工事の施工を一時中止する場合は、工事の続行に備え工事現場を保全すること。

○4 総合施工計画書

(1.2.2)

総合施工計画書(総合仮設計画を含む)提出すること

○5 各工事毎の施工計画書の提出

- | | | | | | |
|--------------|------------|-------------|--------|------------|--------|
| ○ 仮設工事 | ○ 土工事 | ○ 地業工事 | ○ 鉄筋工事 | ○ コンクリート工事 | ○ 鉄骨工事 |
| ・ コンクリートブロック | ・ ALCパネル | ○ 押出成形セメント板 | | ○ 防水工事 | ・ 石工事 |
| ○ タイル工事 | ○ 木工事 | ○ 屋根及びとい工事 | | ○ 金属工事 | ○ 左官工事 |
| ○ 建具工事 | ・ カーテンウォール | ○ 塗装工事 | ○ 内装工事 | ○ エント及びその他 | ○ 排水工事 |
| ○ 舗装工事 | ・ 植栽工事 | ・ | | | |

6 発生材の処理等

(1.3.11)

- ・ 引渡しを要するもの (・ 金属類 ・ PCB含有物 ・)
- ・ 特別管理産業廃棄物 (・ 廃石綿 ・ 鉛含有物 ・)
- ・ 現場において再利用を図るもの (・)

○7 建設リサイクルデータ統合システム

受注者は施工計画作成時、工事完了時及び登録情報の変更が生じた場合は速やかに当該システムにデータの入力を行なうものとする。監督員への報告(提出)はシステムにより作成した{再生資源利用計画書(実施書)}及び{再生資源利用促進計画書(実施書)}により行うものとする。尚、これにより難しい場合には、監督員と協議しなければならない。

8 特定建設資材の再資源化等

本工事は、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」第9条による分別解体等実施義務の対象建設工事となることが想定されるため、同法に基づき分別解体等及び特定建設資材等の実施について適切な措置を講ずる。

ただし、工事契約後に明らかになったやむを得ない事情により、工事契約時に予定していた条件により難しい場合は、監督員と協議する。

また、分別解体・再資源化等の完了時に、再資源化等が完了した年月日、再資源化等をした施設の名称及び所在地、再資源化等に要した費用を書面にて監督員に報告する。

・ 分別解体の方法

工事の種類	工程	作業内容	分別解体等の方法
新営、増築、改修工事	(1) 造成等	左記の工事	
	(2) 基礎・基礎ぐい		
	(3) 上部構造部分・外装		
	(4) 屋根		
	(5) 建築設備・内装等		
	(6) その他()		

工事の種類	工程	作業内容	分別解体等の方法
解体工事	(1) 建築設備、内装材等	左記の取り外し	手作業
	(2) 屋根ふき材		手作業
	(3) 外装材、上部構造部分	左記の取り壊し	手作業・機械作業の併用
	(4) 基礎、基礎ぐい		手作業・機械作業の併用
	(5) その他()		手作業・機械作業の併用

・ 特定建設資材廃棄物の種類と再資源化等をする施設

特定建設資材廃棄物の種類	施設の名称	所在地
・ コンクリート		
・ 鉄及びコンクリートから成る建設資材		
・ アスファルト、コンクリート		
・ 建設発生木材		

届出に係る事項の説明時に上記と異なる施設(同種の再資源化等を行う施設に限る)を受注者が提示した場合は、当該施設に搬出することができる。ただし、当該施設への変更については設計変更の対象としない。

○ 9 環境への配慮

(1.4.1)

(1) 建築物内部に使用する材料等は、設計図書に所要の品質及び性能を有すると共に、次のアからエを満たすものとする。

ア 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ウレ樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗料は、アセトアルデヒド及びスレンを発生しない又は発生が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。

イ 接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。

ウ 接着剤は、可塑性(フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシル等)を含有しない難揮発性の可塑性剤を除く)が添加されていない材料を使用する。

エ アの材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスレンを発生しないか、発生が極めて少ない材料を使用したものとする。

(2) 設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは次のア又はイに該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次のウ又はエに該当する材料を指す。

ア 建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発生建築材料以外の材料

イ 建築基準法施行令第20条の7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料

ウ 建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第三種ホルムアルデヒド発生建築材料

エ 建築基準法施行令第20条の7第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料

○ 10 材料の品質等

(1.4.2)

(1) 本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。

(2) 指定材料、備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督員の承諾を受ける。

(3) 標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。

○ 11 材料の検査等

現場に搬入したすべての材料について、受入検査を実施し、自主検査記録(任意様式)を作成の上、監督員に提出すること。ただし、別表に掲げる材料については監督員の検査を受けること。
 なお、監督員の検査の結果、合格した材料と同じ種別の材料は以後原則として抽出検査とする（ただし、鋼材を除く）。
 また、製造工場等における材料検査を行う工事材料は監督員の指示による。

12 地場産品

静岡県中小企業の受注者機会の増大による地域経済の活性化に関する条例に基づき地場産品の使用促進を図ることで地域経済の活性化に寄与することを目的とする。受注者は工事に使用する建設資材等について契約図書に規定する品質が規格値を満足した地場産品の優先使用に努めること。

「地場産品」とは「県産木材」及び「県産品」をいう。

「県産木材」とは「静岡県産材証明制度要綱」第2条に掲げるものをいう。

「県産品」とは建設資材又は製品等で、県内で最終工程が施されたものをいう。

○ 13 技能士

一級技能士又は単一等級の資格者を有する者の配置を適用する作業種別

(1.5.2)

工事種目	技能検定職種	技能検定作業
仮設工事	とび	◎ とび作業
鉄筋工事	鉄筋施工	◎ 鉄筋組立作業
コンクリート工事	型枠施工	◎ 型枠工事作業
	コンクリート圧送施工	◎ コンクリート圧送工事作業
鉄骨工事	とび	◎ とび作業
	鉄工	◎ 構造物鉄工作業
コンクリートブロック、ALCパネル	ブロック建築	・ コンクリートブロック工事作業
押出成形セメント板工事	エーエルシーパネル施工	◎ エーエルシーパネル工事作業
防水工事	防水施工	・ アスファルト防水工事作業
		◎ ウレタンゴム系塗膜防水工事作業
		・ 塩化ビニル系シート防水工事作業
		・ セメント系防水工事作業
		・ アクリルゴム系塗膜防水工事作業
		・ 合成ゴム系シート防水工事作業
		◎ シーリング防水工事作業
		◎ 改質アスファルトシート貼付工法防水工事作業
		・ FRP防水工事作業
石工事	石材施工	・ 石張り作業
タイル工事	タイル張り	◎ タイル張り作業
木工事	建築大工	◎ 大工工事作業
屋根及びとい工事	建築板金	◎ 内外装板金作業
	スレート施工	・ スレート工事作業
	かわらぶき	・ かわらぶき作業
金属工事	内装仕上施工	◎ 鋼製下地工事作業
	建築板金	・ 内外装板金作業
左官工事	左官	◎ 左官作業
建具工事	サッシ施工	◎ ビル用サッシ施工作業
	ガラス施工	◎ ガラス工事作業
	自動ドア施工	・ 自動ドア施工作業
	建具製作	・ 木製建具手加工作業
		・ 木製建具機械加工作業
カーテンウォール工事	カーテンウォール施工	・ 金属製カーテンウォール工事作業
	サッシ施工	・ ビル用サッシ施工作業
	ガラス施工	・ ガラス工事作業
塗装工事	塗装	◎ 建築塗装作業

内装工事	内装仕上施工	○プラスチック系床仕上げ工事作業
		・カーペット系床仕上げ工事作業
		○ボード仕上げ工事作業
		○壁装作業
	表装	・表具作業
	畳製作	・畳製作作業
	熱絶縁施工	○吹付け硬質ウレタンフォーム断熱工事作業
排水工事	配管	○建築配管作業
舗装工事	路面表示施工	・溶解ペイントマーカ工事作業
		・加熱ペイントマシマーカ工事作業
植栽工事	造園	・造園工事作業

なお、県内に一級技能士が少ない作業職種は、予め監督員と協議することができる。

○ 14 室内空気中の化学物質の濃度測定

測定対象室及び測定箇所数

(1.5.9)

測定対象室 ※ 全ての居室、常時換気しない書庫、倉庫 ・ 図示

測定箇所数 (2) 箇所

室の床面積A(m ²)	A ≤ 50	50 < A ≤ 200	200 < A ≤ 500	500 < A
測定箇所数	1	2	3	4

使用した材料、室の形状、換気設備等の仕様が類似しており、同様の測定結果となることが予想される複数の室については、監督員と協議の上、そのうちの1室以上を測定する。

測定方法 ※ パンプ採取による蒸気拡散式分析法

・ 厚生労働省の標準法

測定物質 ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン

対象物質	厚生労働省の指針値 (25℃の場合)
ホルムアルデヒド	0.08ppm (100 μg/m ³)
トルエン	0.07ppm (260 μg/m ³)
キシレン	0.20ppm (870 μg/m ³)
エチルベンゼン	0.88ppm (3, 800 μg/m ³)
スチレン	0.05ppm (220 μg/m ³)

社会福祉施設においては、パラジクロロベンゼンの測定要否を監督員と協議すること。

測定者 専門測定機関による測定 ※ 現場作業員による測定 ・

測定前準備 測定対象室を30分換気し、その後5時間閉鎖する。

測定時 測定前準備・測定時は換気設備又は空気調和設備を稼動させたまま行う。ただし、局所的な換気扇で常時稼動させないものは停止させたままとする。測定時間は、原則として24時間とする。ただし、24時間測定が行えない場合は8時間測定(10時30分～18時30分)とする。測定位置は、室中央付近の床から1.2m～1.5mの高さとする。

測定後 測定年月日、測定時刻、測定時の室温・湿度・天候、及び内装仕上げ工事の完了した年月日等を記載すること。

○ 15 施工図等の取扱い

施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用权は、発注者に移譲するものとする。

16 設備工事との取合い

(1.7.1～1.7.3) (表1.7.1)

施工範囲 ※ 工事区分表による ・

施工図 設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督員の承諾を受ける。

○ 17 検査

中間検査 ※ 対象工事 (実施は中間検査実施基準による) ・ 対象外工事

○ 18 完成時の提出図書

※現場説明書による。

○ 19 設計GL

設計GL ※ 図示

20 既存部の汚損等

工事施工に際し、既存部分を汚損又は損傷した場合は、構造、仕上げ共、既存にならない補修する。

○ 21 事故報告

工事施工中に事故が発生した場合には、直ちに監督員に通報するとともに、事故発生報告書を監督員に速やかに提出すること。また建設工事事故報告データベースに登録すること。

○ 22 異常気象時の報告

異常気象時（大雨警報、暴風警報、大雪警報）及び震度4以上の地震発生時には、現場点検を行い速やかに監督員に報告する。

23 公共事業労務費調査に対する協力

本工事が公共事業労務費調査の対象となった場合は、その調査時期が工事中又は完成後であっても関係書類の整備、下請負人の指導等を含め協力すること。

2 章 仮設工事

○ 1 足場その他

[2.2.1][表2.2.1](2.2.4)

内部足場の種別 ※ 脚立、足場板等 ・

外部足場の種別 ・ 枠組足場 ○ くさび緊結式足場 ・ 単管本足場

・ 仮設ゴンドラ ・ 移動式足場 ・

足場を設ける場合、標準仕様書2.2.4(b)によるほか、設置においては、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。

・ 外部足場の防護シートによる養生

(・ 養生ネット ○ 養生シート (○ I 類 ・ II 類) ・ ネット状養生シート (・ I 類 ・ II 類)
・ 防音シート ・ 防音パネル)

○ 2 監督員事務所

(2.3.1)

・ 設ける (・ 10㎡程度 ・) ・ 既存建物利用

○ 設けない (ただし、次の備品等を現場に整備すること)

監督員事務所の備品等 標準仕様書によるほか下記による

・ 机 ・ 椅子 ○ ゴム長靴 ○ 雨がっぱ ○ 保安帽 ○ 安全帯 ・ 更衣ロッカー

以上は監督員4人分

・ 書籍 ・ 白板 ・ 掛時計 ・ 寒暖計 ・ 懐中電灯 ・ 受注者加入電話の子機 ・ 消火器

・ 冷暖房機器 ・ パソコン (インターネット接続:)

以上は各1ヶ

○ 3 工事用水

構内既存の施設 ・ 利用できない ○ 利用できる (※ 有償 ・ 無償)

○ 4 工事用電力

構内既存の施設 ・ 利用できない ○ 利用できる (※ 有償 ・ 無償)

3 土工事

○ 1 埋戻し及び盛土

(3.2.3)(表3.2.1)

種別 ○ A種 ※ B種 ・ C種 (土質: 、 受渡条件:) ・ D種

・ 建設汚泥から再生した処理土 [G]

○ 2 建設発生土の処理 (3. 2. 5)

- ・ 場外指定場所に搬出し、搬出後、監督員へ搬出先の受入を証明する資料を提出する。

搬出場所 () 受入条件 ()

処分費 () 仮置き場 ()

- 近隣の受入先を調査の上、搬出距離、受入条件等が確認できる資料を監督員に提出し、協議により搬出先を決定する。搬出後、監督員へ搬出先の受入を証明する資料を提出する。なお、次の運搬に相当する経費を見込んでいる。

搬出距離 (5km) DID区間 (有り)

仮置き場 ()

- ・ 場内指定場所に敷き均し (・ 図示 ・)

- ・ 場内指定場所に堆積 (・ 図示 ・)

なお受注者の提示する運搬距離、処分費及び整地費と異なる場合においても設計変更の対象としない

○ 3 建設汚泥の処理

- ※ 再生資源化施設へ搬出 ・

○ 4 設計地耐力

- ※ 図示

○ 5 山留め

(3. 3. 3)

山留めの設置 ○ 有り (位置、仕様 : ※ 図示 ・) ・ 無し

山留めの残置 ・ 有り (位置 : ※ 図示 ・) ・ 無し

4 地業工事

○ 1 杭の載荷試験

(4. 2. 3)

杭の載荷試験 ・ 行う ○ 行わない

試験種別 ※ 鉛直 ・ 水平

試験方法 ※ 段階載荷方式 ・ 連続載荷方式

試験杭本数(本) ・ 1

試験杭位置 ※ 図示

最大荷重(t) ・

設置後の放置期間 ・

○ 2 地盤の載荷試験

(4. 2. 4)

平板載荷試験 ・ 行う ○ 行わない

試験方法 ※ 地盤工学会基準JGS1521-2003 (地盤の平板載荷試験方法)

載荷方法 ※ 段階式載荷 ・ 段階式繰返し載荷

試験位置 ※ 図示

最大荷重(t) ・

○ 3 支持地盤

(3. 2. 1) (4. 2. 4) (4. 3. 4～5) (4. 5. 4～5)

○ 杭基礎

支持地盤の種類及び位置(基礎ぐいの先端の位置含む) ※ 図示

・ 直接基礎

支持地盤の種類及び位置(基礎底部の位置含む) ※ 図示

試験掘り(根切り底の状態の確認等) ・ 行う ・ 行わない

位置等 ・ 図示 ・ 原位置掘削時の根切りを試験掘りとする

4 既製コンクリート杭地業

(4. 2. 2) (4. 3. 1～5) (7. 2. 5)

種類

- ・ 遠心力高強度プレストレストコンクリート杭(PHC杭)

- ・ 外殻鋼管付きコンクリート杭(SC杭) ((鋼管材料 ・ SKK400 ・ SKK490 ・))

- ・ プレストレスト鉄筋コンクリート杭(PRC杭)

・

寸法、継手、性能等(種別：種類、性能及び曲げ強度区分)

(4.2.2) (4.3.2、3)

		種類	コンクリート強度 (N/mm ²)	杭径 (mm)	厚さ (mm)	杭長 (m)	継手 数	セツ 数	長期設計 支持力(kN/本)	備考
試験杭	上杭									
	中杭									
	下杭									
本杭	上杭									
	中杭									
	下杭									

杭先端部形状 ・ 開放形 ・ 半開放形 ・ 閉そく形 ・ (4.3.2)

施工方法 (4.3.1)

・ 打込み工法 (・ 油圧ハンマー ・ ディーゼルハンマー ・) (4.2.2) (4.4.3)

プレローリングの併用

・ 行わない

・ 行う 掘削深さ及び径 ・ 図示

杭の精度

水平方向のずれ ・ 杭径の1/4かつ100mm以下 ・

杭の傾斜 ・ 1/100以下 ・

試験杭 試験杭の位置 ・ 図示 ・

・ セメントミルク工法 (4.2.2) (4.3.4)

アースオーガーの支持地盤への掘削深さ ・ 1.5m程度 ・

杭の支持地盤への根入れ深さ ・ 1.0m程度 ・

杭の精度 水平方向の位置ずれ ・ 杭径の1/4かつ100mm以下 ・

杭の傾斜 ・ 1/100以内 ・

試験杭 試験杭の位置 ・ 図示による ・

試験杭の施工 ※ 本杭の施工に先立ち行う ・

・ 特定埋込杭工法 (4.2.2) (4.3.5)

・ H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式で $\alpha=250$ を採用できる工法

・ H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式の内 α 、 β 、 γ が下記の値を採用できる工法

$\alpha = ()$ $\beta = ()$ $\gamma = ()$

工法 ・ プレローリング 拡大根固め工法 ・ 中掘り拡大根固め工法 ・

杭周固定液 ・ 使用する ・ 使用しない

杭の精度 水平方向の位置ずれ ・ 杭径の1/4かつ100mm以下 ・

杭の傾斜 ・ 1/100以内 ・

試験杭 試験杭の位置 ・ 図示による ・

杭継手工法 (4.3.2、6) (7.2.5)

・ アーク溶接継手

溶接材料 ・ 7.2.5(a) (b)による ・ 図示 ・

・ 無溶接継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)

工法 ※ 審査(評定又は大臣認定)を受けた工法

検査 ※ 審査(評定又は大臣認定)により定められた項目

施工 ※ 審査(評定又は大臣認定)された施工管理基準による

杭頭の処理 ・ 処理する ・ 処理しない (4.3.7)

処理方法(切断に伴う補強方法含む) ・ 図示による ・

杭頭の中詰め材料 ・ 基礎のコンクリートと同調合のもの ・ (4.3.7)

- 5 鋼杭地業 ※構造図による - NSエコパイル工法 (4. 2. 2) (4. 3. 3, 5, 7) (4. 4. 1～6) (7. 2. 5)
 種類の記号 ・ SKK400 ・ SKK490 ○ STK490
 寸法、継手等 (4. 2. 2) (4. 4. 2)

		種類	杭径 (mm)	板厚 (mm)	杭長 (m)	継手 数	セッ ト 数	長期設計 支持力 (kN/本)	備考
試験杭	上杭	L=2. 0m	355. 6	7. 9	17	4	1	768	
	中杭	L=4. 0m*3							
	下杭	L=3. 0m							
本杭	上杭	L=2. 0m	355. 6 406. 4	7. 9 9. 5	17	4	11	768 530 976	
	中杭	L=4. 0m*3							
	下杭	L=3. 0m							

杭先端部形状 ○ 開放形 ・ 半開放形 ・ 閉そく形 ・ (4. 4. 2)
 先端部の補強 ・ 標準仕様書 図4. 4. 1、表4. 4. 2による ○ メーカー材料製作図仕様による
 先端部の補強(補強バンド等)及びその他付属品の材質 ・ SS400と同等又はそれ以上 ・

施工方法

- 埋込み工法 (・ 油圧ハンマー ・ ディーゼルハンマー ○ 回転圧入)
 プレホーリングの併用
 ○ 行わない (表層に転石等ある場合は先行掘削を行う)
 ・ 行う 掘削深さ及び径 ・ 図示
 杭の精度
 水平方向のずれ ○ 杭径の1/4かつ100mm以下 ・
 杭の傾斜 ○ 1/100以下 ・
 試験杭 試験杭の位置 ○ 図示 ・
 ・ 特定埋込杭工法 (4. 2. 2) (4. 4. 4)
 ・ H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式で $\alpha=250$ を採用できる工法
 ・ H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式の内 α 、 β 、 γ が下記の値を採用できる工法
 $\alpha = ()$ $\beta = ()$ $\gamma = ()$
 工法 ・ 中掘り拡大根固め工法 ・
 杭の精度 水平方向の位置ずれ ・ 杭径の1/4かつ100mm以下 ・
 杭の傾斜 ・ 1/100以内 ・
 試験杭 試験杭の位置 ・ 図示による ・

杭の現場継手 (NSエコパイル工法) (4. 4. 5)

- 溶接継手
 形状 ・ JIS A 5525による ○ メーカー材料製作図仕様による
 溶接材料 ・ 標準仕様書7. 2. 5(a) (b)による ○ JIS Z 3313 (半自動溶接) (4. 4. 2)
 溶接部の確認方法 ※ 目視確認 (標準仕様書7. 6. 10による) ・
 抜き取り率 ○ 全数 ・
 ・ 無溶接継手(継手部に接続金具を用いた方式もの)
 工法 ※ 認定等を受けた工法
 検査 ※ 認定等により定められた項目
 施工 ※ 認定等された施工管理基準による

杭頭の処理 ○ 処理する ・ 処理しない (4. 3. 7) (4. 4. 6)
 処理方法(切断に伴う補強方法含む) ○ 図示による ・
 杭頭の中詰め材料 ・ 基礎のコンクリートと同調合のもの ・

6 場所打ちコンクリート杭地業 (4. 2. 2) (4. 5. 1, 3～5)

- 掘削工法 (4. 5. 1, 4)
 ・ アースドリル工法 (安定液 ※ 使用する ・ 使用しない)
 ・ リバース工法
 ・ オールケーシング工法 (孔内の水張り ・ 行う ・ 行わない)

併用する工法 (4.5.1、5)

- ・ 場所打ち鋼管コンクリート杭工法
鋼管巻き材料 ・ SKK400 ・ SKK490
- ・ 拡底杭工法 (安定液 ※ 使用する ・ 使用しない)
- ・

寸法等 (4.2.2)

	軸径 (mm)	拡底径 (mm)	杭長 (m)	セト 数	長期設計支持力 (kN/本)	備考
試験杭						
本杭						

鉄筋の種類 (4.5.3)

種類の記号	呼び径 (mm)	備考
・ SD295A		
・ SD345		

帯筋 ・ 図示 ・

鉄筋かごの補強

- ・ 杭径1.5m以下の場合は鋼板6×50(mm)、1.5mを超える場合は鋼板9×50～75(mm)の補強リングを3m以下の間隔で、かつ、1節につき3箇所以上入れ、リングと主筋との接触部を溶接する。溶接長さは補強材の幅とする。
- ・

鉄筋の最小かぶり厚さ ・ 100mm ・

鉄筋の重ね継手長さ、主筋の基礎底盤への定着長さ ・ 図示 ・

セメントの種類 ※ 高炉セメントB種[G]

コンクリートの種類 ・ A種 ・ B種 ・ 認定等の内容による

コンクリートの設計基準強度 ・ 図示 ・

構造体強度補正 ・ 3N/mm² ・ 図示 ・ 認定等の内容による

試験杭 試験杭の位置 ・ 図示

・ 孔壁測定

測定箇所 ・ 試験杭 () 箇所及び本杭 () 箇所 ・

杭の精度

水平方向のずれ ・ 杭径の1/4かつ100mm以下 ・

杭の傾斜 ・ 1/100以下 ・

○7 砂利事業 (4.6.2、3)

材料 ○ 再生クラッシュラン[G] ・ 切込砂利及び切込砕石

厚さ ※ 60mm ・ 100mm ○ 図示 ・

摘要箇所 ○ 基礎下、土間コンクリート下、土に接するスラブ下

○ 図示

○8 捨コンクリート地業

捨コンクリートの厚さ ※ 50mm ○ 図示 ・

(4.6.4) (6.14.1)

施工範囲 ○ 基礎梁下、土に接するスラブ下 ○ 図示による

設計基準強度 ※ 18N/mm² ・

スラブ ※ 15cm又は18cm ・

(4. 6. 2) (4. 6. 5)

○ 10 地盤改良工法

5章 鉄筋工事 ※構造図による

(5.2.1)

種類の記号	呼び径 (mm)	備考
○ SD295A	○ D16以下	
○ SD345	○ D19以上	
・	・	
・	・	

 $(5, 2, 2)$

種類	種類の記号	網目の形状、寸法、鉄線の径(mm)	適用箇所
・溶接金網			
・鉄筋格子			

 $(5, 3, 4) \quad (5, 5, 2, \quad 3)$

部位	継手方法	呼び径(mm)
柱、梁の主筋	○ガス圧接 ・ 機械式継手 ・ 溶接継手	D19以上
耐力壁の鉄筋	・ 重ね継手 ・	
その他の鉄筋 ()	○ 重ね継手 ・	D16以下

・ 図示による

(5.3.7)

- 12/58

- ・パラペットの配筋
 - ・スラブの基準配筋
 - ・スラブ筋の定着及び受け筋
 - ・片持スラブの基準配筋
 - ・片持スラブ先端に壁が付く場合の配筋
 - ・スラブの開口部補強
 - ・出隅及び入隅部の補強配筋
 - ・スラブの打継ぎ補強配筋等
 - ・段差のあるスラブの補強配筋
 - ・片持スラブ形階段の基準配筋
- 標準仕様書各部配筋参考図4.6による
 - ・ 標準仕様書各部配筋参考図5.1による
 - ・ 標準仕様書各部配筋参考図5.2による
 - ・ 標準仕様書各部配筋参考図5.3による
 - ・ 標準仕様書各部配筋参考図5.4による
 - ・ 標準仕様書各部配筋参考図5.5による
 - ・ 標準仕様書各部配筋参考図5.6による
 - ・ 標準仕様書各部配筋参考図5.7による
 - ・ 標準仕様書各部配筋参考図5.8による
 - ・ 標準仕様書各部配筋参考図6.1による
- ・ 図示
 - 図示
 - 図示
 - 図示
 - ・ 図示
 - 図示
 - ・ 図示
 - ・ 図示
 - 図示
 - ・ 図示

○ 5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔(溶接金網含む)

※最小かぶり厚さ(目地底から算出を行う) (5.3.5)

柱及び梁の主筋にD29以上の使用

・ 無し

○ 有り

※主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保する

軽量コンクリートで土に接する部分

○ 無し

・ 有り

適用箇所 ()

・ 標準仕様書表5.3.6に加える厚さ () mm

耐久性上不利な部分(塩害等を受けるおそれのある部分等)

・ 無し

・ 有り 適用箇所 ()

・ 標準仕様書表5.3.6に加える厚さ() mm

6 機械式継手

(5.3.5) (5.5.2)

使用箇所 ※ 図示

H12建告第1463号に適合する性能

・ A級

機械式継手の種類及び工法

()

鉄筋相互のあき

・ 図示

品質の確認方法

・ 図示

不良となった継手の修正方法等

・ 図示

7 溶接継手

(5.3.5) (5.5.3)

使用箇所 ※ 図示による

H12建告第1463号に適合する性能

・ A級

鉄筋相互のあき

・ 図示

溶接継手の工法

・ 図示

品質の確認方法

・ 図示

不良となった継手の修正方法等

・ 図示による

○ 8 圧接完了後の試験

外観試験 ※ 行う(全数)

(5.4.9)

抜取試験 ※ 超音波探傷試験

試験の箇所数等

○ 標準仕様書5.4.9、5.4.10による

・ 引張試験

試験片の採取数は、1ロットに対して(※3本 本)とする

6章 コンクリート工事 ※構造図による

○ 1 レーミクストコンクリート製造工場

※ 品質管理監督検査合格工場(○適マーク取得工場)

・

○2 コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度

(6.2.1～4) (6.10.1、2)

普通コンクリートの設計基準強度

設計基準強度 (N/mm ²)	スランプ [°]	適用箇所
○ 21	○ 18	基礎、デッキ上
○ 21	○ 15	土間
○ 18	○ 18	捨てコンクリート

軽量コンクリートの設計基準強度

設計基準強度 (N/mm ²)	スランプ [°]	適用箇所
・	・	
・	・	
・	・	

○3 コンクリート種別

(6.2.1)

種別

※ I 類 (JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート)

・ II 類 (JIS A 5308に適合したコンクリート)

○4 セメント

(6.3.1)

種類

※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種

普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、水和熱が7日目で352J/g以下、かつ28日目で402J/g以下のものとする。

- ・ 高炉セメントB種[G]
- ・ ファイアッシュセメントB種[G]
- ・

○5 骨材

(6.3.1)

アルカリシリカ反応性による区分 ※ A ・ B

○6 混和材料

(6.3.1)

○ 混和剤の適用 (○ AE減水剤 ・ 高性能AE減水剤 ・)

・ 混和材の適用 (・ ファイアッシュ I 種又はII種 ・ 高炉スラグ ・ 膨張材 ・)

○7 気乾単位容積質量

(6.2.3) (6.10.1)

普通コンクリート ○ 2.3t/m³程度 ・

軽量コンクリート ・ 1.6t/m³程度 ・ 1.95t/m³程度 ・

8 軽量コンクリート

(6.10.1)

種別 ・ 1種 ・ 2種

適用箇所 ・ 図示による ・

○9 寒中コンクリート

(6.2.1) (6.11.1)

適用期間 ○ 11 月～ 2 月 ・

・ 調合管理強度及び調合強度を積算温度を元に定め (D・D)

10 暑中コンクリート

(6.12.2)

構造体強度補正值(S) ※ 6N/mm²

11 マスコンクリート

(6.2.1) (6.13.1、2)

セメントの種類

- ・ 中庸熱ポルトランドセメント
- ・ 低熱ポルトランドセメント
- ・ 高炉セメントB種[G]
- ・ ファイアッシュセメントB種[G]
- ・ 普通ポルトランドセメントにJIS A 6206に適合するコンクリート用高炉スラグ微粉末の4000を混合したもの

- 適用箇所 ※ 図示による ・
- ・ 混和材
 - 混和材の種類 ※ JIS A 6206に適合するコンクリート用高炉スラグ微粉末の4000[G]
 - ・
 - ・ 混和剤
 - 混和剤の種類 ※ JIS A 6204に適合するAE減水材又は高性能AE減水材
 - ・
 - スランプ ※ 15cm ・

12 無筋コンクリート (6. 2. 1) (6. 3. 1) (6. 14. 1)

無筋コンクリートの設計基準強度

設計基準強度 (N/mm ²)	スランプ	適用箇所
※ 18	※ 15又は18	※ 標準仕様書6. 14. 1 (e) ・ 図示
・	・	
・	・	

セメントの種類

- ※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種
- ・ 高炉セメントB種[G]
 - ・ ファイアッシュセメントB種[G]

13 流動化コンクリート (6. 2. 1) (6. 15. 1)

適用箇所 ・ 図示による ・

○ 14 ひび割れ誘発目地、打継目地 (6. 6. 3) (6. 8. 2) (9. 7. 3) (11. 1. 3)

目地寸法 ※ 「9防水工事 7シーリング」による
間隔、位置、形状 ※ 図示

○ 15 コンクリートの仕上り

部材の位置及び断面寸法の許容差の標準値

(6. 2. 5) (6. 8. 3)

○ 標準仕様書 表6. 2. 3による ・

合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ

種別	適用箇所
・ A種	
・ B種	
・ C種	

16 打増し厚さ(打放し仕上げ部) (6. 8. 2)

- ・ 打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る)
 - ・ 20mm ・
- ・ 打放し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る)
 - ・ 10mm ・

○ 17 型枠 (6. 8. 3)

せき板の材料及び厚さ ○ 合板 (・ 12mm ・) ・

断熱材の兼用 ・ 行わない ・ 行う

MCR工法用シート ・ 用いる ・ 用いない

打増し厚さ ・ 20mm ・

打増し範囲 ・ 図示による ・

スリーブの材種 ※ 標準仕様書6. 8. 3 (i) (2) 及び標準仕様書表6. 8. 1による

18 耐震スリット

方向	タイプ	耐火性能	防水性能	備考
・ 垂直方向	※ 完全(全貫通型)	・ 耐火型	・ 有り	
・ 水平方向	・	・ 非耐火型	・ 無し	

目地(目地材の材質は標準仕様書表9.6.1による)

目地	内壁	外壁
目地材	シーリング材(見え掛かり部のみ)	シーリング材(見え掛かり部のみ)
目地寸法(mm)	・幅20×深さ10	・幅20×深さ10

施工箇所 ※ 図示

19 止水板

形式 ・ 差込式 ・ 据置式 ・ 壁張り式

施工位置 ※ 図示

7 章 鉄骨工事 ※構造図による

○1 鉄骨の製作工場

(7.1.1、3)

※ 建築基準法に基づき性能評価を受けた製作工場で、下記に認定された製作工場

- ・ Sグレード ○ Hグレード ・ Mグレード ・ Rグレード ・ Jグレード
- ・ 上記のもの以外の製作工場 (・ 監督員の承諾する製作工場)

○2 施工管理技術者

(7.1.3) (7.1.4) (7.6.2) (7.12.2)

※ 適用する ・ 適用しない

○3 鋼材

(7.2.1)

材質等

種類の記号	適用箇所(主要な部分)	規格
SS400	梁 (一般部)	○ JIS規格による ・
SN400B	梁 (JOINT部分マテ)	○ JIS規格による ・
SN490C	ダイヤフラム	○ JIS規格による ・
BCR295	柱	○ JIS規格による ・
		・ JIS規格による ・
		・ JIS規格による ・

有効細長比(圧縮材に限る)

- ・ 図示 ・

○4 高力ボルト

(7.2.2) (7.3.2) (7.4.2)

ボルトの区分 ○ トリツア形高力ボルト

セットの種類 ※ 2種 (S10T)

- ・ JIS形高力ボルト

セットの種類 ※ 2種 (F10T)

高力ボルトの径 ○ 図示による

ボルトの縁端距離、ボルトの間隔、ゲージ等 ○ 図示による ・

すべり係数試験 ※ 行わない ・ 行う

試験方法等 ○ 図示による ・

5 普通ボルト

ボルト及びナットの材料

(7.2.3) (7.3.2)

○ 標準仕様書7.2.3による

- ・ 標準仕様書7.2.3(JIS付属書品)又はJIS本体規格品(ISO規格)による。

(JIS本体規格品による場合は、ボルトの種類を呼び径六角ボルト又は全ねじ六角ボルト、強度区分を4.6又は4.8の鋼製とし、ナットの種類を六角ナット-C鋼製とする。なお、呼び径六角ボルトの軸径の最大寸法は、ボルトの径の値以下とする。)

・

座金 ・ 標準仕様書 7.2.3(d)による ・

ボルトの径 ・ 図示による ・

ボルトの縁端距離、ボルトの間隔、ゲージ等 ・ 図示による ・

- 6 溶融亜鉛めっき高力ボルト (7.2.2) (7.3.2、8) (7.12.4)
- セットの種類 ・ 1 種 (F8T相当)
- 溶融亜鉛めっき高力ボルトの径 ・ 図示による
- 溶融亜鉛めっき高力ボルトのめっき前の孔径
- ・ 審査(評定又は大臣認定)を受けた内容による
- ボルトの縁端距離、ボルトの間隔、ゲージ等 ・ 図示による
- 摩擦面の処理
- ・ ブラスト処理 (表面粗度50 μ mRz以上) ・ りん酸塩処理
- すべり耐力等の確認方法
- ※ すべり係数試験 試験方法等 ・ 図示による ・

- 7 アンカーボルト (7.2.4) (7.3.2)
- 適用 ○ 構造用アンカーボルト
- セットの種類 (JIS B 1220) ○ 図示 ・ ABR490
- 形状、寸法 ・ 図示
- ・ 建方用アンカーボルト
- 種類 ・ SS400
- アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度 ※ 標準仕様書 7.2.3による
- 形状、寸法 ・ 図示
- ボルトの縁端距離、ボルトの間隔、ゲージ等 ・ 図示による

- 8 溶接材料 (7.2.5)
- 溶接材料 ○ 標準仕様書 7.2.5(a) (b)による。
- ・ 図示

- 9 デッキプレート (6.8.3) (7.2.7) (7.7.8)
- 材質、形状及び寸法

	適用箇所	材質、形状、寸法	備考
・ 構造床			
・ 合成スラブ			
○ 床型枠用鋼製デッキ	スラブ	IT-08 : t=0.8	
・			

- 開口部補強要領(補強筋の定着長さ等を含む) ○ 図示による ・
- 鉄骨部材への溶接方法 ○ 図示による ・
- 耐火認定 ・ 有り ○ 無し
- 耐火時間 ・ 図示による ・

- 10 スタット
- 材質、形状及び寸法
- ※ 頭付きスタット JIS B 1198 ・

呼び名	呼び長さ(mm)	適用箇所
・ 16		
○ 19	80	
・ 22		

- 11 柱底均しモルタル (7.2.9)
- モルタルの種類 ※ 無収縮モルタル ・
- 柱底均しモルタルの厚さ ・ 50mm ○ 30mm ・

- 12 工作図 (7.3.2)
- 原寸図の作成 ・ 行う ○ 行わない
- 監督員による現寸検査 ○ 行う ・ 行わない
- ※ 増築工事等を含め、既存建築物との取り合う箇所がある場合は現場実測の上、工作図を作成すること

○ 13 鉄骨の仮組 (7.3.10)

- ・ 行う ○ 行わない
- 仮組を行う範囲 ・ 図示による ・
- 確認方法、確認項目 ・ 図示による ・

○ 14 溶接作業における技能資格者 (7.6.3)

- 溶接作業者の技量付加試験 ※ 行わない ・ 行う
- 試験の要領 ・

○ 15 溶接接合 (7.6.4) (7.6.7)

- 開先の形状 ○ 図示による ・
- スラップの形状 ○ 図示による ・
- エンドタブを切除する部分 ○ 見え掛り部となる部分 (・ 図示による ・)
 - ・ 見え隠れ部となる部分 (・ 図示による ・)
 - ・ 無し
- 溶接部の余盛り高さ ○ JASS 付則6「鉄骨精度検査基準」付表3「溶接」による
- 固形フラックスタブの使用
 - 固形フラックスタブを使用する場合はAW検定技能会議の実施する認定試験の合格者若しくは、日本エンドタブ協会の実施する施工講習会受講者が施工すること。
 - 低応力高サイクル疲労をうける部位 ・ 有り (位置 ※ 図示 ・)

○ 16 溶接部の試験 (7.6.11)

- 完全溶け込み部の超音波探傷試験
- ※ 行う ・ 行わない
 - ・ 工場溶接の場合 AOQL (%) ※ 4.0 ・ 2.5
- | | | | | | |
|------|--------|---|---|---|---|
| 節 | ○ 全て | ・ | ・ | ・ | ・ |
| 検査水準 | ※ 第6水準 | ・ | ・ | ・ | ・ |
- ・ 現場溶接の場合 AOQL (%) ※ 4.0 ・ 2.5
- 突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査
- 「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による
- ・ 抜き取り検査(1) ※ 抜き取り検査(2)

○ 17 錆止め塗装 (7.8.3) (18.2.3)

- 塗料の種別
- 鉄鋼面の錆止め塗料
 - 屋外 ※ 標準仕様書表18.3.1 A種 ・
 - 屋内 ○ 標準仕様書表18.3.1 (A) 種 ・
- ・ 亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料
 - ・ 標準仕様書18.3.2 () 種
- 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スラブの内面(鉄骨に溶接されたものに限る)
 - ※ 標準仕様書表18.3.1 A種 ・
- ・ 塗装を行う耐火被覆材の接着面
- 適用範囲 ・ 図示 ・
- 塗料の種別 ・ 標準仕様書表18.3.1 () 種
 - ・ 標準仕様書表18.3.2 () 種
- ・

○ 18 耐火被覆

種別

(7.9.2～7.9.7)

種別	材料・工法	性能(耐火時間)	適用箇所(部位・部分)
○ 耐火材吹付け	・ 乾式吹付けロックウール		
	○ 半乾式吹付けロックウール	1 時間	柱・梁
	○ アスロック+ロックウール (合成)	1 時間	柱・梁
	・		
・ 耐火板張り	・ 繊維混入けい酸カルシウム板		
	・		
・ 耐火材巻付け	・ 高断熱ロックウール		
	・		
・ ラス張りモルタル塗り	－		

材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする

19 アンカーボルトの保持及び埋込み工法

(7.2.4) (7.10.2)

構造用アンカーフレームの形状及び寸法

○ 図示による ・

建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法

種別 ・ A種 ・ B種 ・ C種

20 軽量形鋼構造

(7.11.2)

接合部(ボルト接合の場合) ・ 普通ボルト接合 ・

○ 21 溶融亜鉛めっき

(7.12.3)

※ 標準仕様書7.12.3による ・

8 章 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事

1 補強コンクリートブロック造

(8.2.2、5)

ブロックの種類

断面形状及び 圧縮強さによる区分	正味厚さ (mm)	モジュール呼び寸法(mm)		化粧の有無	適用箇所	備考
		長さ	高さ			
※ 空洞ブロック-16				・ 無 ・ 有		
・				・ 無 ・ 有		
・				・ 無 ・ 有		

各部の配筋 ※ 図示 ・

2 コンクリートブロック塀及び壁

(8.3.2、3)

ブロックの種類

断面形状及び 圧縮強さによる区分	正味厚さ (mm)	モジュール呼び寸法(mm)		化粧の有無	(表8.3.1)以外の 適用箇所	備考
		長さ	高さ			
・ 空洞ブロック-08				・ 無 ・ 有		
・ 空洞ブロック-16				・ 無 ・ 有		
・ 型枠状ブロック-20				・ 無 ・ 有		

各部の配筋 ※ 図示 ・

3 ALCパネル

(8.4.2～5)

パネルの種類	単位荷重 (N/m ²)	厚さ (mm)	長さ (mm)	耐火性能	表面加工	構法の種別
・ 外壁パネル		・ 100 ・		有(1)時間	・ 平 ・ 意匠	・ A種 ・ B種
・ 間仕切壁パネル		・ 100 ・		・ 有(1)時間 ・ 無	・ 平 ・ 意匠	・ C種 ・ D種 ・ E種
・ 屋根パネル		・ 100 ・		有(0.5)時間	・ 平	F種
・ 床パネル		・ 100 ・		・ 有() 時間		

外壁パネルの工法

建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法

※ 適用する(建築基準法に基づき定まる風圧力 (※1 ・ 1.15 ・ 1.3)倍の風圧力に対応した工法)

・ 適用しない

外壁パネルの出隅及び入隅のパネル接合部、並びにパネルと他部材との取合い部の目地幅(mm) (8.4.3)

※ 20 ・

伸縮目地への耐火目地材の充填 ・ 適用する ・ 適用しない

(8.4.3)

○ 4 押出成形セメント板 (ECP)

(8.5.2～5)

パネルの種類	表面形状	厚さ(mm)	幅(mm)	工法の種別	備考
○ 外壁パネル	○ フラットパネル	・ 50 ○ 60 ・	600	○ A種 ・ B種	
	・ テキサインパネル	・ 50 ・ 60			
	○ タイルベースパネル	○ 60 (75)	900		
・ 間仕切壁パネル	・ フラットパネル	・ 50 ・ 60 ・		・ B種 ・ C種	
	・ テキサインパネル	・ 50 ・ 60			
	・ タイルベースパネル	・ 60			

外壁パネルの工法

建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法

※ 適用する(建築基準法に基づき定まる風圧力 (※1 ・ 1.15 ・ 1.3)倍の風圧力に対応した工法)

・ 適用しない

パネル相互の目地幅(mm) ※ 長辺8、短辺15 ○ 長辺10、短辺15

出隅及び入隅のパネル接合目地の目地幅(mm) ※ 15 ・

やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とする。ただし、欠損部分を考慮した強度を確認のうえ、施工計画書を提出する。(※メーカー標準による)

		開口の大きさ		切断後のパネルの残りの部分の幅	
パネルに開口を設ける場合	短辺	○ 300mm以下	・ 図示	○ 150mm以上	・ 図示
	長辺	○ 500mm以下	・ 図示	○ 300mm以上	・ 図示
パネルを切り欠く場合	短辺	○ パネル幅-300mm以下	・ 図示	○ 300mm以上	・ 図示
	長辺	○ 500mm以下	・ 図示	○ 300mm以上	・ 図示

9章 防水工事

1 アスファルト防水

(9.2.2～5) (表9.2.3～9)

屋根保護防水

種別	施工箇所	断熱材[G]	絶縁用シート	立上り部の保護
・ A-1			※ ポリエチレンフィルム 厚さ0.15mm以上 ・	※ 乾式保護材 ・ コンクリート押え
・ A-2				
・ A-3				
・ B-1				
・ B-2				
・ B-3				
・ AI-1		(材質) 下記による (厚さ) ・ 25mm ・ 50mm ・	※ フラットヤンクロス 70g/m2程度 ・	
・ AI-2				
・ AI-3				
・ BI-1				
・ BI-2				
・ BI-3				

断熱材[G]の材質

※ JISA9521による押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA(スキン層付)又はJISA9511によるA主押出法ポリスチレンフォーム保温材の保温板の保温板3種b(スキンあり)

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ

※ 標準仕様書表9.2.3から表9.2.8による

部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ

※ 標準仕様書表9.2.5から表9.2.8による

平場の保護コンクリートの厚さ こと仕上げ ※ 水下80mm以上
床タイル張り ※ 水下60mm以上

乾式保護材

窯業系ペネル：無石綿の繊維質原料等を主原料として、板状に押出成形しオートクレーブ養生したもの

金属複合板：金属板と樹脂を積層一体化したもの。

(品質、性能、試験方法)建築材料等品質性能表による

屋根露出防水

種別	施工箇所	断熱材[G]	仕上塗料		高日射反射率 防水の適用[G]
			種類	使用料	
・ D-1			・ ・ 製造所の 指定による	・ ・ 製造所の 指定による	・
・ D-2					・
・ D-3					・
・ D-4					・
・ DI-1		(材質) ※	・ ・ 製造所の 指定による	・ ・ 製造所の 指定による	・
・ DI-2		(厚さ) ・ 25mm :			・

断熱材[G]の材質

※ JISA9521による硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号もしくは2号又はJISA9511によるA種硬質ウレタンフォーム保温材の保温板2種1号又は2号(透湿係数を除く規定に適合するもの)

屋根露出防水絶縁断熱工法の場合の、ルーフィング回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置

※ 図示

屋内防水

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・ E-1		・ E-2	

保護層 ・ 設ける (※ 図示 ・) ・ 設けない
立上りコンクリート打放し仕上げ
※ 標準仕様書表6.2.4[打放し仕上げの種別]のB種 ・
押え金物の材質及び形状 ※ アルミニウム製 L-30×15×2.0mm ・
防水層の下地モルタル塗り ・ 適用する ((施工範囲 ・ 図示 ・)
・ 適用しない

屋上排水溝 ※ 図示

○ 2 改質アスファルトシート防水 (9.3.2、3) (表9.3.1～3)

種別	施工箇所	断熱材[G]	仕上塗料		防湿層	高日射反射率防水の適用[G]
			種類	使用料		
・ AS-T1			・ 製造所の指定による	・ 製造所の指定による		・
・ AS-T2						・
・ AS-J1						・
・ AS-T3						・
・ AS-T4						・
・ AS-J1						・
○ ASI-T1		(材質) 下記による (厚さ) ・ 25mm ○ 60mm	・ 製造所の指定による ○ 製造所の指定による	・ 製造所の指定による ○ 製造所の指定による	・ 有 ○ 無	・
・ ASI-J1						・

断熱材の材質 (DI-1、DI-2)
※ JISA9521による硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号もしくは2号又はJISA9511によるA種硬質ウレタンフォーム保温材の保温板の2種1号もしくは2号 (透湿係数を除く規定に適合するもの)
・

3 合成高分子系ルフィングシート防水 (9.4.2～4) (表9.4.1～3)
防水層の種別

種別	施工箇所	絶縁用シートの材種	断熱材[G]	仕上塗料		高日射反射率防水の適用[G]
				種類	使用料	
・ S-F1				・ 製造所の指定による	・ 製造所の指定による	・
・ S-F2						・
・ S-M1						・
・ S-M2						・
・ S-M3						・
・ SI-F1			(材質) 9.4.2(c) (3)(ii)による (厚さ) ・ 25mm ・	・ 製造所の指定による	・ 製造所の指定による	・
・ SI-F2						・
・ SI-M1			(材質) 9.4.2(c) (3)(i)による	・ 製造所の指定による	・ 製造所の指定による	・
・ SI-M2		※発泡ポリエチレンシート ・	(厚さ) ・ 25mm ・			・

屋内防水

種別	施工箇所	保護層			立上がり部の保護モルタル塗り厚
		塗厚	・ 床塗り工法	・ 下地モルタル塗り	
・ S-C1	図示	・	※ 15.2.5(b)(2)及び(3)に準ずる ・	※ 15.2.5(b)(2)及び(3)に準ずる ・	※ 7mm以下 ・

屋内防水で平場を保護コンクリート仕上げとする場合の厚さ ・

ルーフィングシートの種類及び厚さ

※ 標準仕様書表9.4.1、表9.4.2及び表9.4.3による

固定金具の材質及び寸法形状

※ 厚さ0.4mm以上の防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板及びそれらの片面又は両面に樹脂を積層加工した鋼板

PCコンクリート部材下地及びALC[®] 下地で種別S-C1の場合の目地処理

・ 行う (・ 図示) ・ 行わない

PCコンクリート部材の入隅部の増張り (種別S-F1、SI-F1、S-C1の場合)

・ 行う (・ 図示) ・ 行わない

ALC[®] 下地の入隅部の増張り (種別S-C1の場合)

・ 行う (・ 図示) ・ 行わない

機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け

建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法

※ 適用する (建築基準法に基づき定まる風圧力 (※ 1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法)

・ 適用しない

○ 4 塗膜防水

(9.5.3) (表9.5.1～2)

防水層の種別

種別	施工箇所	仕上塗料		防湿層	高日射反射率 防水の適用[G]
		種類	使用料		
・ X-1		・	・		
○ X-2	庇、排水溝他	○ 製造所の 指定による	○ 製造所の 指定による		
・ Y-1	※ 地下外壁防水				
・ Y-2	※ 屋内防水			・ 有 ・ 無	

5 珪酸質系塗布防水

(9.6.1、3) (表9.6.1、2)

防水層の種別

種別	施工箇所	種別	施工箇所
※ C-UI		・ C-UP	

6 脱気装置

(9.2.3) (9.3.3) (9.5.3)

防水種別	種類	設置数量
D-1 D-2 D-3 D-4 DI-1 DI-2 AS-T3 AS-T4 AS-J2 ASI-T1 ASI-J1	※ アスファルトルーフィング [®] 類製造所の 仕様による ・	※ アスファルトルーフィング [®] 類製造所の 仕様による ・ 個/m ²
X-1	※ 防水層の主材料の製造所の 仕様による ・	※ 防水層の主材料の製造所の 仕様による ・ 個/m ²

○ 7 シーリング

下表以外は、標準仕様書表9.7.1による。

(9.7.2、3) (表9.7.1)

ただし、外壁タイル接着剤張りの場合のシーリングは11章に、カーテンウォールの場合のシーリングは17章による

施工箇所	シーリング材の種類(記号)

目地寸法	打継ぎ目地	※ 幅20mm×深さ10mm以上	・
	ひび割れ誘発目地	※ 幅20mm×深さ10mm以上	・
	ガラス回り目地	※ 幅 5mm×深さ 5mm以上	・
	その他の箇所	※ 幅10mm×深さ10mm以上	・

目地位置 ※ 図示
 接着試験 ※ する (※ 簡易接着性試験 ・ 引張接着試験)
 ・ しない

10 石工事

1 施工

(10.1.3, 5)

石材の割付け ※ 標仕10.1.3(a)(1)、(2)による ・ 図示
 粗面仕上げの場合のみ込み部分の仕上げ ・ 図示 ・
 屋内の床を本磨きとする場合のワックスがけ
 ・ 行う (使用箇所 ・ すべて ・)

2 石材等

(10.2.1)(表10.2.1、2)

天然石

施工箇所	品質	石材の種類	形状	寸法(mm)	厚さ(mm)	表面仕上げ	備考
	・ 1等品 ・ 2等品		※ 正方形に近い矩形 ・				

テラゾブロック

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	形状	仕上面	寸法(mm)	表面仕上げ	備考
	※ 大理石 ・ 花こう岩	※ 1.5～2.0	・ 平もの ・ 役もの	・ 片面 ・ 両面			

テラゾタイル

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	寸法による区分	寸法(mm)	表面仕上げ	備考
	※ 大理石 ・ 花こう岩	※ 1.5～2.0	・ 300型 ・ 400型			

取付け用モルタル、既調合の目地モルタル、石裏面処理材、裏打ち処理材
 ※ 石材施工業者の指定する製品 ・

3 外壁湿式工法

(10.2.2, 3)(10.3.2, 3)

受金物 材質 ※ SS400 ・
 形状及び寸法 ・ L-75×75×6(mm)の加工 長さ100mm
 ・ L-75×75×6(mm)の加工 長さ50mm
 ・

アンカーの材質及び径 ※ SS400 M12 ・

あと施工アンカーの材質及び形状 ()

ドレンパイプの材質 ・ 樹脂ネット製パイプ クロスメッシュ巻き 25～35Φ
 ・

石裏面処理 ・ 適用する ・ しない

裏打ち処理 ・ 適用する ・ しない

下地ごしらえ ※ 流し筋工法

・ あと施工アンカー工法

・ あと施工アンカー横筋流し工法

目地	一般目地	目地幅(mm)	※ 6以上	・
		シーリング材	・ 適用する	・ しない
	伸縮調整目地	位置	※ 標準仕様書表11.1.1による	・ 図示
	シーリング材	目地寸法	※ 標準仕様書9.7.3(a)(3)による	・ 図示

4 内壁空積工法 (10.2.2)(10.4.2,3)

石裏面処理	・適用する	・しない		
裏打ち処理	・適用する	・しない		
下地ごしらえ	※あと施工アンカー横筋流し工法		・あと施工アンカー工法	
あと施工アンカーの材質及び形状（ ）				
目地	一般目地	目地幅(mm)	※6以上	・
		シーリング材	・適用する	・しない
	伸縮調整目地	位置	※標準仕様書表11.1.1による	・図示
	シーリング材	目地寸法	※標準仕様書9.7.3(a)(3)による	・図示

5 乾式工法 (10.2.2)(10.5.2,3)(表10.2.4)

取付け方式	・ スライド方式	・ ロッキング方式
石裏面処理	・ 適用する	・ しない
裏打ち処理	・ 適用する	・ しない
アンカーの材質及び径	※ ステンレス(SUS304)M10	
あと施工アンカーの材質及び形状	()	
目地幅(mm)	※ 8以上	・ 図示
目地シーリング材	※ 標準仕様書9.7.3による	・ 適用しない
外壁の工法	※ 適用する(建築基準法に基づき定まる風圧力 (※ 1 ・ 1.15 ・ 1.3)倍の風圧力に対応した工法)	
	・ 適用しない	

6 床及び階段の石張り

床石張りの裏面処理	・ 適用する	・ しない		(10.6.2、3)
階段張りの裏面処理	・ 適用する	・ しない		
目地	一般目地	目地幅(mm)	・ 図示	・
		シーリング材	・ 適用する	・ しない
	伸縮調整目地	位置	※ 床面積30㎡ごと、細長い通路6m程度ごと及び他部材との取 り合い部	
			・ 図示	
		シーリング材の目地寸法	※ 標準仕様書9.7.3(a)(3)による	・ 図示

7 アーチ、上げ裏等の石張り (10.2.2)(10.7.1、2)

取付け金物	※ 標準仕様書10.2.2(c)による			・
引金物、だば、かすがい及び受金物	※ 標準仕様書10.2.2(a)による			・
ファスナー	※ 標準仕様書10.2.2(b)スライド方式に準じる			・
吊金物及び化粧吊りボルト				
・ 設ける	吊金物	※ ステンレス(SUS304) 径6mm長さ80mm(加工物)		
		・		
	吊りボルト	※ ステンレス(SUS304) M10化粧ナット付き		
		・		
・ 設けない				
あと施工アンカーの材質及び寸法 ()				
取付け工法	・ 内壁空積工法	・ 乾式工法		
石裏面処理	・ 適用する	・ 適用しない		
裏打ち処理	・ 適用する	・ 適用しない		
目地	一般目地	目地幅(mm)	※ 6以上	・
伸縮調整目地				
	位置	※ 他の部位との取合い部		・ 図示
	シーリング材の目地寸法	※ 標準仕様書9.7.3(a)(3)による		・ 図示

8 笠木、甲板等の石張り (10.2.2) (10.7.1、3)

取付け金物 ※ 標準仕様書10.2.2(c)による ・
 引金物、だば、かすがい及び受金物 ※ 標準仕様書10.2.2(a)による ・
 ファスター ※ 標準仕様書10.2.2(b)のスライド方式に準じる ・
 あと施工アンカーの材質及び寸法 ()
 取付け工法 ・ 外壁湿式工法 ・ 乾式工法
 石裏面処理 ・ 適用する ・ 適用しない
 乾式工法の場合の取付け代 ※ 標準仕様書10.5.3(b)による ・
 石裏の補強用モルタル ・ 適用する ・ しない

11章 タイル工事

1 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 (11.1.3) (表11.1.1)

位置 ※ 標準仕様書表11.1.1による ・ 図示

○2 セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り (11.2.2、7)

タイルの形状、寸法等

施工箇所	形状寸法(mm)	再生材の適用[G]	吸水率による区分			うわぐすり		役物		色		耐凍害性		耐滑り性	備考
			I類	II類	III類	施釉	無釉	有	無	標準	特注	有	無		
エントランスホール	300□	・	・	・	・	・	・	・	・	○	・	・	・	・	
玄関	100□	・	・	・	・	・	・	・	・	○	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする

試験張り ・ 行う ○ 行わない

見本焼き ・ 行う ○ 行わない

モルタル塗りのコンクリート素地面の処理 ・ MCR工法 ・ 目荒し工法(高圧洗浄) ・

壁タイル張りの工法

外装タイル ○ 密着張り ・ 改良積上げ張り ・ 改良圧着張り

内装タイル以外のエッジタイル ・ マスク張り ・ モザイクタイル張り

既製調合モルタル

モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。

(品質、性能、試験方法)建築材料等品質性能表による

既製調合目地材

(品質、性能、試験方法)建築材料等品質性能表による

○3 接着剤による陶磁器質タイル張り (11.3.2～4、7)

タイルの形状、寸法等

施工箇所	形状寸法(mm)	再生材の適用[G]	吸水率による区分			うわぐすり		役物		色		耐凍害性		備考
			I類	II類	III類	施釉	無釉	有	無	標準	特注	有	無	
パ・ラ・ヘット	ECP部同じ	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする

試験張り ・ 行う ○ 行わない

見本焼き ・ 行う ○ 行わない

接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外 ・

- 外装タイル接着剤張りにおける目地のシーリング材
- 打継ぎ目地 ※ポリウレタン系シーリング材
 - ひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系シーリング材
 - 伸縮調整目地 ※変成シリコン系シーリング材
 - その他の目地 ※変成シリコン系シーリング材
- モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理
- MCR工法
 - 目荒し工法(高圧洗浄)

4 陶磁器質タイル型枠先付け

(11. 4. 2、3) (表11. 4. 1)

タイルの形状、寸法等

施工箇所	主な用途による区分	形状寸法(mm)	再生材の適用[G]	吸水率による区分			うわぐすり		役物		色		備考
				I類	II類	III類	施釉	無釉	有	無	標準	特注	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする

試験張り ・ 行う ・ 行わない
見本焼き ・ 行う ・ 行わない

タイル型枠先付けの種類

種類	適用タイル	タイル型枠先付け面のせき板の種類別
・ タイルシート法	・ 小口タイル	※ 標準仕様書6. 8. 3(b) (2)
・ 目地榫法	・ 二丁掛けタイル	・ 金属製タイル先付け用パネル
・ 桟木法	大形タイル	・

12章 木工事

1 表面仕上げ

(12. 1. 4) (表12. 1. 1)

表面仕上げの種類別	適用箇所
・ A種	
○ B種	
・ C種	

2 木材の含水率

(12. 2. 1)

現場搬入時の木材の含水率 ※ A種 ・ B種
12. 2. 1(b)～(e) までで含水率が規定されているものはその規定による

○ 3 製材[G]

(12. 2. 1) (12. 4. 1) (12. 5. 1) (12. 6. 1) (12. 7. 1)

※ 県内産木材 ・ 12. 2. 1による木材 ・ 市販品
適用樹種 (○ 杉 ○ 檜)
県内産木材の適用がない場合でも可能な範囲で県内産木材の使用に努めること
報告：静岡県産材証明制度の「県産材販売管理票」により報告すること

○ 合法的に生産された木材を使用すること。
報告：木材・木製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン(平成18年2月15日林野庁作成)に準拠した証明書により報告すること

造作材の材面の品質の基準 ※ A種 ・ B種

○ 「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	間伐材等の適用
和室	桧		※ 2級 ・		※ A種 ・ B種 ・	・ 有 ○ 無
			※ 2級 ・		※ A種 ・ B種 ・	・ 有 ・ 無
			※ 2級 ・		※ A種 ・ B種 ・	・ 有 ・ 無

○「製材の日本農林規格」による造作用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法 (mm)	等級	形状	含水率	間伐材等の適用
見掛面	スプルース	H60	※ 上小節 ・		※ A種 ・ B種 ・	・ 有 ○ 無
見掛面以外			※ 小節以上 ・		※ A種 ・ B種 ・	・ 有 ○ 無
			※ 2級		※ A種 ・ B種 ・	・ 有 ・ 無

○「製材の日本農林規格」による広葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法 (mm)	等級	形状	含水率	間伐材等の適用
玄関框	たも	100*50	※ 1等 ・		※ 10%以下 ・ A種 ・ B種 ・	・ 有 ○ 無
			※ 1等 ・		※ 10%以下 ・ A種 ・ B種 ・	・ 有 ・ 無

「製材の日本農林規格」以外の製材

施工箇所	樹種	寸法 (mm)	造作材の材面の品質	防虫処理	難燃処理	含水率	間伐材等の適用
			(造作材の場合 (※ A種 ・ B種 ・)	・ 有 ・ 無	・ 有 ・ 無	※ A種 ・ B種 ・	・ 有 ・ 無
			(造作材の場合 (※ A種 ・ B種 ・)	・ 有 ・ 無	・ 有 ・ 無	※ A種 ・ B種 ・	・ 有 ・ 無
			(造作材の場合 (※ A種 ・ B種 ・)	・ 有 ・ 無	・ 有 ・ 無	※ A種 ・ B種 ・	・ 有 ・ 無

4 造作用集成材[G]

(12. 2. 1)

ホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外 ・

○「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	見付け材面の等級	間伐材等の適用
洋室カウンター	イースタンオーク	W750 D400 T28	※ 1等 ・ 2等	・ 有 ○ 無
			※ 1等 ・ 2等	・ 有 ・ 無
			※ 1等 ・ 2等	・ 有 ・ 無

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法 (mm)	化粧薄板 の厚さ(mm)	見付け材面 の等級	間伐材等の適用
	化粧薄板： 芯材：			※ 1等 ・ 2等	・ 有 ・ 無
	化粧薄板： 芯材：			※ 1等 ・ 2等	・ 有 ・ 無
	化粧薄板： 芯材：			※ 1等 ・ 2等	・ 有 ・ 無

- ・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり構造用集成柱

施工箇所	樹種	寸法 (mm)	化粧薄板 の厚さ(mm)	間伐材等 の適用	
	化粧薄板： 芯材：			・有 ・無	
	化粧薄板： 芯材：			・有 ・無	
	化粧薄板： 芯材：			・有 ・無	

- ・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法 (mm)	見付け材面 の品質	含水率	間伐材等 の適用
				※ 15%以下 ・	・有 ・無
				※ 15%以下 ・	・有 ・無
				※ 15%以下 ・	・有 ・無

- ・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法 (mm)	化粧薄板 の厚さ(mm)	見付け材面 の品質	含水率	間伐材等 の適用
	化粧薄板： 芯材：				※ 15%以下 ・	・有 ・無
	化粧薄板： 芯材：				※ 15%以下 ・	・有 ・無
	化粧薄板： 芯材：				※ 15%以下 ・	・有 ・無

- ・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり構造用集成柱

施工箇所	樹種	寸法 (mm)	化粧薄板 の厚さ(mm)	見付け材面 の品質	含水率	間伐材等 の適用
	化粧薄板： 芯材：				※ 15%以下 ・	・有 ・無
	化粧薄板： 芯材：				※ 15%以下 ・	・有 ・無
	化粧薄板： 芯材：				※ 15%以下 ・	・有 ・無

5 造作用単板積層材[G]

(12. 2. 1)

ホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外 ・

- ・単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材

施工箇所	厚さ (mm)	表面の品質	防虫処理	間伐材等 の適用
		・有 (加工 ・ 天然木加工 ・ 塗装加工) ・無 ()	・有 ・無	・有 ・無
		・有 (加工 ・ 天然木加工 ・ 塗装加工) ・無 ()	・有 ・無	・有 ・無

・ 単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材

施工箇所	厚さ (mm)	表面の品質	含水率	防虫処理	間伐材等 の適用
		・ 有 (加工 ・ 天然木加工 ・ 塗装加工) ・ 無 ()	※ 14%以下	・ 有 ・ 無	・ 有 ・ 無
		・ 有 (加工 ・ 天然木加工 ・ 塗装加工) ・ 無 ()	※ 14%以下	・ 有 ・ 無	・ 有 ・ 無

○ 6 床張り用合板等

(12. 2. 1)

ホルムアルデヒドの放散量 ※ 規制対象外

○ 普通合板[G]

施工箇所	厚さ (mm)	表板の 樹種名	接着の 程度	板面の品質	防虫 処理	間伐材等 の適用
フローリング 押入	※ 5.5 ・	シ	※ 1類 ・ 2類	広葉樹 ※ 2等以上 ・ 1等 針葉樹 ※ C-D以上 ・	・ 有 ○ 無	・ 有 ○ 無
	※ 5.5 ・		※ 1類 ・ 2類	・	・ 有 ・ 無	・ 有 ・ 無
	※ 5.5 ・		※ 1類 ・ 2類	・	・ 有 ・ 無	・ 有 ・ 無

・ 構造用合板[G]

施工箇所	等級	表板の 樹種名	接着の 程度	板面の 品質	厚さ (mm)	有効断面 係数比	防虫 処理	強度 等級	間伐材等 の適用
	※ 2級以上 ・ 1級		※ 1類 ・ 特類	※ C-D以上 ・	※ 12 ・	・ 有 ・ 無	・ 有 ・ 無	・ 有 () ・ 無	・ 有 ・ 無
	※ 2級以上 ・ 1級		※ 1類 ・ 特類	※ C-D以上 ・	※ 12 ・	・ 有 ・ 無	・ 有 ・ 無	・ 有 () ・ 無	・ 有 ・ 無
	※ 2級以上 ・ 1級		※ 1類 ・ 特類	※ C-D以上 ・	※ 12 ・	・ 有 ・ 無	・ 有 ・ 無	・ 有 () ・ 無	・ 有 ・ 無

○ パーティクルボード[G]

施工箇所	厚さ (mm)	表裏面の状態 による区分	曲げ強さ による区分	接着剤 による区分	難燃性 による区分
床	※ 15 ○ 20		※ 13タイプ ・	※ P又はM ・	
	※ 15 ・		※ 13タイプ ・	※ P又はM ・	

・ 構造用パネル

施工箇所	等級	厚さ(mm)
	・ 1級 ・ 2級 ・ 3級 ・ 4級	
	・ 1級 ・ 2級 ・ 3級 ・ 4級	

○ 7 接着剤

(12. 2. 2、 3)

接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。

ホルムアルデヒドの放散量 ※ 規制対象外

3 粘土瓦葺

(13.4.2、3)

施工箇所	種類			大きさ	産地	役物瓦の種類	雪止め瓦
	製法による区分	形状による区分	寸法による区分				
							・適用する ・適用しない
							・適用する ・適用しない

瓦棧木 材質 ※ 杉又は檜 ・
寸法 ※ 幅21×高さ15(mm) ・
棟補強用心材 材質 ※ 杉又は檜 ・
寸法 ※ 幅40×高さ30(mm) ・
工法 建築基準法に基づき定まる (※1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力に対応した工法

瓦棧木の留付け工法 ※ 図示 ・
棟の工法 ・ 標準仕様書13.5.5による ・

○4 とい

(13.5.2、3)(表13.5.5)

といの材種 ・ 配管用鋼管 ○ 硬質ポリ塩化ビニル管 ・
ロックウール保温筒及びフェノールフォーム保温筒のホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外 ・
鋼管製といの防露巻き ・ 適用する(工法： ※ 標準仕様書表13.5.5による ・)
・ 適用しない

ルフトレン

種別	施工箇所
○ ろく屋根用(・縦型 ・横型)	屋上、3階屋根
○ バルコニー用	廊下、バルコニー
○ バルコニー中継用	バルコニー

14章 金属工事

○1 ステンレスの表面仕上げ

(14.2.1)

種類	施工箇所(手すり、タラップ、建具以外)
※ HL程度	館銘板
・ 鏡面仕上程度	
・ No.2B程度	

○2 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理

(14.2.2)(表 14.2.1)

種別	皮膜又は複合皮膜の種類	施工箇所(成形板、笠木、建具以外)
・ A-1種	※ AA15 ・	
・ A-2種(・ アンバー ・ ブロンス ・ ブラック系 ・ ステンカラー)	※ AA15 ・	
・ B-1種	※ B ・	
○ B-2種(・ アンバー ・ ブロンス ○ ブラック系 ・ ステンカラー)	※ B ・	玄関庇
・ C-1種	※ AA6 ・	
・ C-2種(・ アンバー ・ ブロンス ・ ブラック系 ・ ステンカラー)	※ AA6 ・	
・ D種		
・		

陽極酸化皮膜の着色方法 ※二次電解着色 ・ 三次電解着色

3 鉄鋼の亜鉛めっき (14. 2. 3) (表14. 2. 1)

表面処理方法	種別	施工箇所（手すり、タラップ 以外）
・ 溶融亜鉛めっき	・ A種	
	・ B種	
	・ C種	
・ 電気亜鉛めっき	・ D種	
	・ E種	
	・ F種	

○ 4 軽量鉄骨天井下地 (14. 4. 2～4) (表14. 4. 1)

特定天井 ・ 有 （仕様、位置は図示による） ○ 無し

野縁等の種類

屋外 ※ 25形 ・ 19形 屋内 ※ 19形 ・ 25形

○ 屋外の軒天井、ビ ーティ天井等

工法 建築基準法に基づき定まる （※ 1 ・ 1.15 ・ 1.3 ） 倍の風圧力に対応した工法

野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔 ・ 図示 ○ 標準仕様書による

周辺部の端からの間隔 ・ 図示 ○ 標準仕様書による

野縁の間隔 ・ 図示 ○ 標準仕様書による

・ 吊りボルトの間隔が900mmを超える場合 補強方法 ※ 図示 ・

・ 天井のふとところが1.5m以上3.0m以下の場合

補強方法 ※ 標準仕様書14. 4. 4(h) (1)～(2)による ・ 図示

・ 天井のふとところが3.0mを超える場合 補強方法 ※ 図示 ・

・ 天井下地材における耐震性を考慮した補強 補強方法 ・ 図示 ・

補強方法 ※ 図示 ・

○ 5 軽量鉄骨壁下地 (14. 5. 3) (表 14. 5. 1)

スタッド、ランナーの種類

※ 標準仕様書表14. 5. 1によるスタッド の高さによる区分に応じた種類 ○ 図示

スタッド の高さが5.0mを超える場合 ※ 図示 ・

6 金属成形板張り (14. 6. 2、3) (表 14. 2. 1)

種別	製法	形状	板幅 (mm)	板厚 (mm)	表面処理	
					種別	皮膜等の種類
・ アルミニウム	・ 押出し ・ ロール	スパンドレル形			・ B-1種	※ B ・
					・ B-2種 （ ・ アンバー ・ ブロンス ・ ブラック系 ・ ステンカラー ）	※ B ・
	・ プレス ・	パネル形			・ C-1種	※ AA6 ・
					・ C-2種 （ ・ アンバー ・ ブロンス ・ ブラック系 ・ ステンカラー ）	※ AA6 ・
					・ D種	
・						

取付け用下地 ※ 標準仕様書14. 4による ・ 図示

伸縮調整継手 ・ 設ける(施工箇所 ・ 図示 ・) ・ 設けない

○ 7 アルミニウム製笠木 (14. 7. 2、3) (表 14. 2. 1) (表 14. 7. 1)

種類 ・ 250形 ○ 300形 ○ 350形 ・ 100形

表面処理 種別 （ A-1 ）種 皮膜等の種類 （ ※ 標準仕様書表14. 2. 1による ・ ）

着色 （ ・ アンバー ・ ブロンス ・ ブラック系 ・ ステンカラー ○ シルバー ）

笠木の固定金具の工法等

建築基準法に基づき定まる （※ 1 ・ 1.15 ・ 1.3 ） 倍の風圧力に対応した工法

- 8 手すり及びタラップ (14. 8. 2、3)
- 手すり ・ ステンレス製 SUS304(表面処理 ※ HL程度 ・ No. 2B程度 ・)
 ○ 鋼製 (表面処理 ○ 溶融亜鉛めっき ・)
- タラップ ○ ステンレス製 SUS304(表面処理 ※ 研磨なし ・)
 ・ 鋼製 (表面処理 ※ 溶融亜鉛めっきC種 ・)

9 エキスパンションジョイント金物

材種	クリアランス(mm)	耐火性能	備考
・ アルミニウム製	・ 50 ・ 100	・ 有り ()	
・ ステンレス製	・ 150	・ 無し	

15章 左官工事

○1 モルタル塗り (15. 2. 2、5)

- 既製目地材 ・ 設ける 施工箇所 () 形状 (※ 図示 ・)
 ・ 設けない
- 床目地 ・ 設ける (工法 ※ 押し目地 ・)
 ・ 設けない
- 外壁タイル張り下地の均しモルタルの接着力試験 ○ 適用する
 ・ 適用しない
- ・ 防水剤
 (品質、性能、試験方法) 建築材料等品質性能表による

○2 床コンクリートの直均し仕上げ (6. 2. 5) (15. 3. 2)

下表以外は標準仕様書15. 3. 2による

施工箇所	平たんさ(mm)	備考
○ フリーアクセスフロア(支柱調整式) 範囲	○ 1mにつき10以下	
・	・	

○3 珪フルベリング材塗り (15. 4. 2) (表15. 4. 1)

- ・ せっこう系 ○ セメント系

○4 仕上塗材仕上げ (15. 5. 2)

建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量

※規制対象外 ・ 第三種

仕上塗材の種類 : ○ 多意匠装飾仕上塗材(シリコン系) 吹付けタイル押え

種類	呼び名	防火材料	仕上げの形状
・ 薄付け仕上塗材	・ 外装薄塗材Si	・	・ 砂壁状
	・ 可とう形外装薄塗材Si	・	・ ゆず肌状(・ 吹付け ・ ロー塗り)
	・ 外装薄塗材E	・	・ さざ波状
	・ 可とう形外装薄塗材E	・	・ 平たん状
	・ 防水形外装薄塗材E	・	・ 凹凸状(・ 吹付け ・ こて塗り)
	・ 外装薄塗材S	・	・ 着色骨材砂壁状
	・ 内装薄塗材C	・	(・ 吹付け ・ こて塗り)
	・ 内装薄塗材L	・	・ 砂壁状じゅらく
	・ 内装薄塗材Si	・	・ 京壁状じゅらく
	・ 内装薄塗材E	・	吸放湿性
	・ 内装薄塗材W	・	・ 適用する ・ 適用しない

・ 厚付け仕上 塗材	・ 外装厚塗材C	・	・ 吹放し ・ 凹凸状 吸放湿性 上塗材	・ 凸部処理 ・ ひき起こし ・ 適用する ・ 適用する	・ 平たん状 ・ かき落とし ・ 適用しない ・ 適用しない
	・ 外装厚塗材Si	・			
	・ 外装厚塗材E	・			
	・ 内装厚塗材C	・			
	・ 内装厚塗材L	・			
	・ 内装厚塗材G	・			
	・ 内装厚塗材Si	・			
	・ 内装厚塗材E	・			
・ 複層仕上 塗材	・ 複層塗材CE	・	・ ゆず肌状 耐候性 上塗材 溶媒 樹脂 外観	・ 凸部処理 ※ 耐候性3種 ・ 水系 ・ 弱溶剤系 ※ アクリル系 ・ つや有り ・ つや無し ・ メタリック	・ 凹凸模様
	・ 可とう形複層塗材CE	・			
	・ 複層塗材Si	・			
	・ 複層塗材E	・			
	・ 複層塗材RE	・			
	・ 防水型複層塗材CE	・			
	・ 防水型複層塗材E	・			
	・ 防水型複層塗材RE	・			
・ 軽量骨材 仕上塗材	・ 吹付用軽量塗材	・	・ 砂壁状	・ 平たん状	
	・ こて塗用軽量塗材	・			

防火材料の指定 ※ 屋内の壁、天井の仕上材は防火材料とする

5 ALC[®] 板の場合の下地処理 (15.5.4)

内壁目地部の形状 ※ V形目地付き ・

6 マスチック塗材塗り (15.6.2)

・ A種 ・ B種

○ 7 ロックウール吹付け (15.8.2、3)

ロックウールのホルムアルデヒド[®] 放散量 ※ 規制対象外 ・ 第三種
 接着剤のホルムアルデヒド[®] 放散量 ※ 規制対象外 ・ 第三種
 吹付け厚さ(mm) ※ 図示 ○ 25 ○ 30 (アスロック合成)

16章 建具工事

1 見本の製作等 (16.1.4)

建具見本の製作 ・ 行う(建具符号：)
 ・ 行わない
 建具見本の程度 ・ 工事に使用するものとして、あらかじめ製作する
 ・ 納まり等が分かる程度のもの
 特殊な建具の仮組 ・ 行う(建具符号：)
 ・ 行わない

○ 2 防犯建物部品 (16.1.6)

○ 適用する(建具符号： SD-3 玄関扉：デインプル錠)
 ・ 適用しない

○ 3 アルミニウム製建具

外部に面する建具 (16.2.2、4、5)(表14.2.1)

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み	建具符号
・ A種	S-4	A-3	W-4	・ 建具表による	※ 建具表による ・
※ B種	S-5				※ 建具表による ・
・ C種	S-6	A-4	W-5	・ 建具表による	※ 建具表による ・

遮音ドアセット、遮音サッシ 遮音性の等級 (・ T-1 ○ T-2 ・ T-3 ・ T-4)
 建具符号 (○ 建具表による ・)

断熱ドアセット、断熱サッシ[G] 断熱性の等級 (・ H-1 ・ H-2 ・ H-3 ・ H-4 ・ H-5)
 建具符号 (・ 建具表による ・)
 耐震ドアセット 面内変形追随性の等級 (・ D-1 ・ D-2 ・ D-3)
 建具符号 (・ 建具表による ・)
 表面処理
 外部に面する建具 ・ B-1種 ○ B-2
 皮膜等の種類(※ 標準仕様書表14.2.1による ・)
 着色(・ アンバー ・ ブロンス ○ ブラック系 ・ ステンカラー)
 屋内の建具 ・ C-1種 ・ C-2種 ・
 皮膜等の種類(※ 標準仕様書表14.2.1による ・)
 着色(・ アンバー ・ ブロンス ・ ブラック系 ・ ステンカラー)
 結露水の処理方法 ・ 図示 ・
 水切り板、ぜん板 ・ 図示 ・

○ 4 網戸等 (16.2.3)

種類	材種	線径	網目
○ 防虫網	※ 合成樹脂製	※ 0.25mm以上	○ 16メッシュ ・ 18メッシュ
	・ ガラス繊維入り合成樹脂製	・	
	・ ステンレス (SUS316) 製	※ 0.2mm～0.6mm	
・ 防鳥網	ステンレス (SUS304) 線材	1.5mm	網目寸法 15mm

5 樹脂製建具 (16.2.5) (16.3.2～5)

外部に面する建具

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み	建具符号
・ A種	S-4	A-4	W-4	建具表による	
・ B種	S-5		W-5		
・ C種	S-6				

防音ドアセット、防音サッシ 遮音性の等級 (・ T-1 ・ T-2)
 建具符号 (・ 建具表による ・)
 断熱ドアセット、断熱サッシ[G] 断熱性の等級 (・ H-4 ・ H-5 ・ H-6)
 建具符号 (・ 建具表による ・)

表面色 ※ 標準色 ・ 特注色
 水切り板、ぜん板 ※ 図示 ・
 ガラス ※ 複層ガラス ・

○ 6 鋼製建具 (16.2.2) (16.4.2～4) (表16.4.2)

簡易気密型ドアセット ・ 適用する (建具符号 ※ 建具表による)
 ○ 適用しない

外部に面する鋼製建具の耐風圧性 ・ S-4 ・ S-5 ・ S-6 ・
 建具符号 (・ 建具表による ・)
 防音ドアセット・防音サッシ 遮音性の等級 (・ T-1 ○ T-2 ・ T-3 ・ T-4)
 建具符号 (○ 建具表による ・)
 断熱ドアセット・断熱サッシ[G] 断熱性の等級 (・ H-1 ・ H-2 ・ H-3 ・ H-4 ・ H-5)
 建具符号 (・ 建具表による ・)
 耐震ドアセット 面内変形追随性の等級 (・ D-1 ・ D-2 ○ D-3)
 建具符号 (○ 建具表による ・)

鋼板 (16.4.3、4) (表16.4.2)

材料	めっき付着量	厚さ
・ JIS G 3302(溶融亜鉛めっき鋼板)	※ Z12又はF12 ・	標準仕様書表16.4.2 ・
・ JIS G 3317(溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっきめっき鋼板)	※ Y08 ・	

7 鋼製軽量建具(16. 2. 2) (16. 5. 2～4)

簡易気密型ドアセット

- ・適用する (建具符号 ※ 建具表による)
- ・適用しない

- 防音ドアセット・防音サッシ遮音性の等級 (・ T-1 ・ T-2 ・ T-3 ・ T-4)
建具符号 (・ 建具表による ・)
- 断熱ドアセット・断熱サッシ[G]断熱性の等級 (・ H-1 ・ H-2 ・ H-3 ・ H-4 ・ H-5)
建具符号 (・ 建具表による ・)
- 耐震ドアセット面内変形追従性の等級 (・ D-1 ・ D-2 ・ D-3)
建具符号 (・ 建具表による ・)
- 鋼板 ※ 亜鉛めっき鋼板 ・ ビニル被覆鋼板 ・ カラー鋼板 ・ ステンレス鋼板
鋼板の厚さ ・ 標準仕様書表16. 5. 1による ・
召合せ、縦小口包み板の材質 ※ 鋼板 ・

○ 8 ステンレス製建具(16. 2. 2) (16. 4. 2) (16. 6. 2～5)

- 外部に面する鋼製建具の耐風圧性 ※ S-4 ・ S-5 ・ S-6
建具符号 (○ 建具表による ・)
- 簡易気密型ドアセット
 - ・適用する (適用箇所 ※ 図示)
 - 適用しない
- 防音ドアセット・防音サッシ遮音性の等級 (・ T-1 ・ T-2 ・ T-3 ・ T-4)
建具符号 (・ 建具表による ・)
- 断熱ドアセット・断熱サッシ[G]断熱性の等級 (・ H-1 ・ H-2 ・ H-3 ・ H-4 ・ H-5)
建具符号 (・ 建具表による ・)
- 耐震ドアセット面内変形追従性の等級 (・ D-1 ・ D-2 ○ D-3)
建具符号 (・ 建具表による ・)
- ステンレス鋼板(屋外) ○ SUS304 ・ SUS430J1L ・ SUS443J1
ステンレス鋼板(屋内) ○ SUS304 ・ SUS430J1L ・ SUS443J1 ・ SUS430
表面仕上げ ○ HL仕上げ ・ 鏡面仕上げ ・
ステンレス鋼板の曲げ加工 ※ 普通曲げ ・ 角出し曲げ

○ 9 木製建具 (Panasonic ベリテイス)(16. 7. 2～4)

- 建具材の加工、組立時の含水率 ※ B種 ・
- 建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※ 規制対象外 ・
- ・ フラッシュ戸

表面材の合板の種類

合板の種類	規格等	備考
・ 普通合板[G]	表面の樹種 生地、透明塗料塗り (※ ラツン程度 ・) 不透明塗料塗り (※ しな合板程度 ・) 板面の品質() 接着の程度(・ 1類 ・ 2類)	
・ 天然木 化粧合板[G]	樹種名() 接着の程度(・ 1類 ・ 2類)	
・ 特殊加工化粧合板[G]	化粧加工の方法 (・ オバーレイ ・ フリント ・ 塗装) 表面性能()タイプ 接着の程度(・ 1類 ・ 2類)	

- 表面板の厚さ ※ 表16. 7. 6による ・
- ・ かまち戸
かまち樹種() 鏡板樹種()
見込み寸法 ※ 36mm ・ 建具表による ・

- ・ ふすま
張りの種別(・ I 類 ・ II 類)
上張り(押入等の裏側以外) ・ 鳥の子 ・ 新鳥の子又はビニル紙程度
縁仕上 ・ 塗り縁 ・ 生地縁(素地) ・ 生地縁(ウレタンリヤー塗装)
見込み寸法 ※ 19.5mm ・ 建具表による ・
- ・ 戸ぶすま
見込み寸法 ※ 30mm ・ 建具表による ・
- ・ 紙張り障子
見込み寸法 ※ 30mm ・ 建具表による ・
枠、くつぎりの材料 ・ 建具表による ・

○ 10 建具用金物

(16.8.2、3)(表16.8.1)

金物の種類・見え掛り部の材質等

- ※ 標準仕様書表16.8.1及び適用は建具表による ・
- 樹脂製建具に使用する丁番 ※ 標準仕様書表16.8.3による ・
- 握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付位置 ・ 建具表による ・

- ・ 錠前類 【シリンダ錠及びシリンダ本締り錠】
(品質)
デットボルトの出寸法は17mm以上とする。鍵付きのものはマスターキー、グラントマスターキー、コンストラクションキーなどのキーシステムが構築できるものとする。
(性能) 建築材料等品質性能表による
- ・ 錠前類 【レバーハンドル】
(性能) 建築材料等品質性能表による
- ・ クローザ類
(品質、性能、試験方法) 建築材料等品質性能表による

○ 11 鍵

(16.8.4)

- マスターキー ○ 製作する(・ グラントマスター ○ コンストラクション ・ 逆マスター)
・ 製作しない
- その他の鍵 ※ 各室3本1組 ・
- 鍵箱 ※ 有(鋼製市販品) ・ 無

12 自動ドア開閉装置

(16.9.2、3)

自動ドア	性能	防錆	センサーの種類	
・ DSLD-1 ・ DSLD-2 ・ SSLD-1 ・ SSLD-2	※ 標準仕様書 表16.9.1による ・	・ 適用する ・ 適用しない	・ マットスイッチ ・ 光線(反射)スイッチ ・ 熱線スイッチ ・ 音波スイッチ ・ 光電スイッチ	・ 電波スイッチ ・ タッチスイッチ ・ 押しボタンスイッチ ・ ペダルスイッチ ・ 多機能便所スイッチ
・ SWD-1 ・ SWD-2	※ 標準仕様書 表16.9.2による ・			
・ 図示	・			

- 凍結防止措置 ・ 行う (※ 適用箇所は建具表による) ・ 行わない
(品質、性能、試験方法) 建築材料等品質性能表による

13 自閉式上吊り引戸装置

(16.10.3)

- (性能) ※ 標準仕様書表16.10.1による ・
- (試験方法) 工事建築材料等品質性能表による

14 重量シャッター

(16.11.2、3)

- シャッターの種類 ・ 管理用シャッター 耐風圧強度()N/m²
・ 外壁用防火シャッター 耐風圧強度()N/m²
・ 屋内用防火シャッター
・ 屋内用防煙シャッター

開閉機能による種類 ※ 上部電動式(手動併用) ・ 上部手動式
 管理用シャッターのシャッターケース ・ 設ける ・ 設けない
 スラット及びシャッターケース用鋼板
 鋼板の種類 ・ JIS G 3302(溶融亜鉛めっき鋼板)
 ・ JIS G 3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板)
 めっきの付着量 ※ Z12またはF12

15 軽量シャッター

(16.12.2～4)

開閉形式 ※ 手動式 ・ 上部電動式(手動併用)
 耐風圧強度()N/m²
 スラットの材質 ・ JIS G 3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板)
 めっき付着量(※ Z06またはF06 ・)
 ・ JIS G 3322(塗装溶融55%アルミニウム亜鉛合金めっき鋼板)
 めっき付着量(※ AZ90 ・)
 スラットの形状 ・ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形

16 オーバーヘッドドア

(16.13.2、3)

セクション材料 による区分	耐風圧区分 (Pa)	開閉方式 による区分	収納形式 による区分	ガイドレールの材質
※ スチールタイプ ・ アルミニウムタイプ ・ ファイバーグラスタイプ	・ 125 ・ 100 ・ 75 ・ 50	※ バランス式 ・ チェーン式 ・ 電動式	・ スタンダード形 ・ ローハット形 ・ ハイリフト形 ・ バーチカル形	※ 溶融亜鉛めっき鋼板 ・ ステンレス鋼板

○ 17 ガラス

(9.7) (16.14.2～4) (表16.14.1)

・ 合わせガラス

品種	構成種類	性能
・ フロート合わせガラス	・ フロート板合わせガラス ・ 熱線吸収、フロート板合わせガラス	・ I 類
・ 網入り磨き合わせガラス	・ 網入り磨き、フロート板合わせガラス ・ 網入り磨き、熱線吸収板合わせガラス	・ II-1類 ・ II-2類 ・ III類

・ 強化ガラス

材料板ガラスによる種類	種類	性能
・ フロートガラス	・ フロート強化ガラス ・ 熱線吸収強化ガラス	・ I 類 ・ III類
・ 型板ガラス	・ 型板強化ガラス	

・ 熱線吸収板ガラス

品種	性能	色調
・ 熱線吸収フロート板ガラス ・ 熱線吸収網入り磨き板ガラス	・ 1種 ・ 2種	・ ブルー ・ グレー ・ ブロンズ

○ 複層ガラス

品種	断熱性	日射熱遮へい性
○ 断熱複層ガラス (Low-E) (○ ブルー系)	・ 1種	・ U1
	・ 2種	・ U2
	○ 3種	○ U3-1 ・ U3-2
・ 日射遮へい複層ガラス	・ 1種	・ E4
	・ 2種	・ E5

・熱線反射ガラス

品 種	日射遮へい性	耐久性
・熱線反射ガラス 色調（ ・ブルー ・グレー ） ・高性能熱線反射ガラス 色調（ ・ブロンズ ・シルバー ）	・ 1種	A種
	・ 2種	・ A種 ・ B種
	・ 3種	B種

反射皮膜面 ・ 内面 ○ 外面
 映像調整 ・ 行う ・ 行わない

・倍強度ガラス

材料板ガラスによる種類の名称	色調
・フロート倍強度ガラス	—
・熱線吸収倍強度ガラス	・ブルー ・グレー ・ブロンズ

ガラスの留め材及び溝の大きさ

建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ(mm)
アルミニウム製	※シーリング材(9.7.1) ・カセット ・グレイジングチャンネル形 ・	※標準仕様書表16.14.1による ・図示 ・
鋼製及び鋼製軽量	※シーリング材(9.7.1)	※標準仕様書表16.14.1による
ステンレス製	※シーリング材(9.7.1)	※標準仕様書表16.14.1による

18 ガラスブロック

(16.14.5)

表面形状	呼び寸法	厚さ	色調		目地幅(mm)		伸縮調整目地(mm)	防火性能
			クリア	乳白	平積み	曲面積み		
正方形	・ 125×125	80	・	・	※ 8～15 ・ 15～25 ・	外側	※ 6m以下 ごとに 10～25 ・ 図示 ・	・ 無し ・ 有り
	・ 160×160	・ 95 ・ 125	・	・		※ 15以下		
	・ 200×200	・ 95 ・ 125	・	・		・		
	・ 320×320	95	・	・		内側		
長方形	・ 250×125	80	・	・		※ 6以上		
	・ 320×160	95	・	・		・		

曲面積みの曲率半径は、ガラスブロックの幅寸法の10倍以上とする

壁用金属枠及び補強材 ・ 設ける(形状 ※ 図示 ・)
 ・ 設けない

化粧目地モルタルの色 ()

金属製化粧カバー 材質 ・ ステンレス製 ・ アルミニウム製
 寸法 ※ 図示 ・
 形状 ※ 図示 ・

工法 建築基準法に基づき定まる (※ 1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法

目地部の力骨の補強方法

※ ガラスブロック製造所の仕様による ・

○ 19 ガラス用フィルム

種類	各性能による区分 (JIS A5759)	張り面	防火認定	備考 製造所等
・日射調整フィルム(SC)	・ A ・ B ・ C	※ 内張り ・ 外張り	・ 有 ・ 無	JIS A5759によるもの ホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外 ・ 第三種
○ ガラス飛散防止フィルム(GS)	・ A ・ B			
・ ガラス貫通防止フィルム(SF)	・ A ・ B			

17章 カーテンウォール工事

1 取付方法、性能等

(17.1.3)(17.2.2)(17.3.2)

取付方法 ・ 層間方式 ・ 柱、梁方式 ・ 方位方式 ・ スパントレル方式 ・

性能

耐震性能		水密性	気密性	遮音性	断熱性	耐火性能	耐温度差性 (℃)
水平方向 (kH)	垂直方向 (kV)						
・ 1.0 ・	・ 0.5 ・	・ W-1 ・ W-2 ・ W-3 ・ W-4 ・ W-5 ・	・ A-1 ・ A-2 ・ A-3 ・ A-4 ・	・ T-1 ・ T-2 ・ T-3 ・ T-4 ・	・ H-1 ・ H-2 ・ H-3 ・ H-4 ・	・ 30分 ・ 1時間	・ 80 ・ 70 ・ 60

耐風圧性能 建築基準法に基づき定まる (※ 1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工

主要部材の耐風圧性能 (ガラスを除く)

支点間距離(h)	耐風圧性能	状態
4m 以下	・ たわみ量が $\pm (1/150) \times h$ かつ絶対量 20mm 以下であること ・	部材の脱落、ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらないこと。
4m を超える	・	

層間変位追従性

建築物の構造種別	層間変位量 (h = 支点間距離)	変位後の状態
鉄骨造	・ $\pm (1/200) \times h$ 以上 ・	部材の脱落、ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらないこと。 シーリングは補修程度の損傷であること。
鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造	・ $\pm (1/300) \times h$ 以上	

シーリング材料

下表以外は標準仕様書表9.7.1による

被着体の組合せ		シーリング材の種類	
		記号	主成分による区分
金属	ガラス		
	石、タイル		
ガラス	ガラス		
カーテンウォール板間目地			

構造ガスケット

・ 適用する (施工箇所 ※ 図示)

材質 ・ クロロレン系 ・ EPDM系 ・ シリコン系

形状 ・ H型 ・ Y型 ・ C型

寸法(mm) ガラス板厚()、支持枠の厚さ()、ウェブの寸法()

・ 適用しない

断熱材[G] 種類()

厚さ(mm) () 施工箇所 ※ 図示 ・

耐火材料

施工部位	種別	規格等
・ ファスター部		
・ 取付けブラケット		
・ パネル目地部		
・ 層間ふさぎ		

2 メタルカーテンウォール

(17.2.2、3、5)

カーテンウォールの材料

材料	規格等	見え掛け部分の仕上げ	映像調整
※ アルミニウム製	※ 標準仕様書16.2.3による	・ A-1種 ・ A-2種 ・ 皮膜等の種類 (※ 標準仕様書 14.2.1による ・) 着色 (・ アンバー ・ ブロンズ ・ ブラック系 ・ ステンカラー)	・ 行う ・ 行わない
・			

製品及び取付位置の寸法許容差 ※ 標準仕様書表17.2.1～3による
ガラス溝の寸法、形状 ※ 製造所の仕様による ・

18章 塗装工事

○1 材料

(18.1.3)

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量

※ 規制対象外 ・ 第三種

・ 防火材料 ※ 屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする
・ 次の箇所を除き防火材料とする(箇所:)

○2 素地ごしらえ

(18.2.2～7)

下地面等		種別
木部	不透明塗料塗りの場合	※ A種 ・ B種
	透明塗りの場合	※ B種 ・ A種
鉄鋼面		※ C種 ・ A種 ・ B種
亜鉛めっき鋼面		・ A種 ・ B種
モルタル面及びプーラスター面		※ B種 ・ A種
コンクリート面、ALCパネル面及び押出成形セメント板面		※ B種 ・ A種
せっこうボード面及び	目地：継目処理工法	※ B種 ・ A種
その他ボード類	目地：継目処理工法以外	※ B種 ・ A種

○3 錆止め塗料塗り

(18.3.2、3)

下地面等		工程の種別	塗料の種別
鉄鋼面	見え掛け部分	※ A種 ・ B種	
	見え隠れ部分	※ B種 ・ A種	
亜鉛めっき鋼面	鋼製建具	※ A種 ・ B種	・ A種 ・ B種 ・ C種
	鋼製建具以外	※ B種 ・ A種	

○4 塗装

(18.4.1～18.14.2)

塗装		種別	塗料の種類	高日射反射率 塗料の適用[G]
・ 合成樹脂調合ペイント 塗り (SOP)	木部屋外	※ A種 ・ B種	※ 1種 ・ 2種	
	木部屋内	※ B種 ・ A種	※ 1種 ・ 2種	
	鉄鋼面	※ B種 ・ A種	※ 1種 ・ 2種	・
	亜鉛めっき鋼面	—	※ 1種 ・ 2種	・
・ クリヤッカー塗り (CL)		※ B種 ・ A種	—	
・ アクリル樹脂系非水分散型塗料塗り (NAD)		※ B種 ・ A種	—	
○ 耐候性塗料塗り (DP)	鉄鋼面	—	上塗等級 () 級	・
	亜鉛めっき鋼面	—	上塗等級 (1) 級	・
	コンクリート面及び押出 成形セメント板面	・ A種 ・ B種 ・ C種	上塗等級 () 級	
○ つや有合成樹脂エマル ションペイント塗り (EP-G)	コンクリート面等	※ B種 ・ A種	—	
	屋内の鉄鋼面	※ B種 ・ A種	—	

・ 合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP)	※ B種 ・ A種	—	
・ 合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り (EP-T)	※ B種 ・ A種	—	
○ ウレタン樹脂ワニス塗り (UC)	※ B種 ・ A種	—	
・ ラッカーエマル塗り (LE)	※ B種 ・ A種	—	
・ オイルステイン塗り (OS)	—	—	
○ 木材保護塗料塗り (WP)	※ B種 ・ A種	—	

・ 防塵用塗料塗り

材質 水性アクリル系樹脂塗料 (※ 標準色 ・)

仕上種別 コーティング (ローラー刷毛塗り)

塗布量 主剤2回塗とし、総塗布量は0.25kg/m²以上とする。

- ・ 金属製屋根面に塗装する場合の塗料はJIS K 5675に適合する資材とする。種別、工程及び塗付量は図示による。

19章 内装工事

○1 接着剤

(19.2.2)

接着剤のホルムアルデヒド放散量

※ 規制対象外 ・ 第三種

接着剤は可塑剤 (難揮発性の可塑剤を除く) が添付されていないものとする

施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種別

・ 図示 ・

2 ビニル床シートビニル床タイルの特殊機能

帯電防止機能： 帯電防止性能評価値 (JIS A 1455) 1.2以上～3.2未満、又は体積電気抵抗値 (JIS A 1454) $1 \times 10^7 \sim 1 \times 10^{10} \Omega$ 程度

耐動荷重： JIS A 1454による、へこみ試験、残留へこみ試験、滑り性試験、摩擦性試験、層間はく離強度試験 (発泡層のあるビニル床シートのみ) 及びキャスター性試験等の試験後、異常がない

○3 ビニル床シート [G]

(19.2.2、3)

種類	JIS記号	施工箇所	色柄	特殊機能	厚さ (mm)	備考
発泡層のないもの	※ FS ・	・ バルコニー ・ 通路 ・ 階段	○ 無地 ・ マーブル柄	・ 帯電防止 ・ 耐動荷重 ○ 防滑性 ・ 耐薬品性	※ 2.0 ○ 2.5	
発泡層のあるもの	○ KS	・ 住戸内床	・ 無地 ○ 柄物		○ 1.8	

(PFの場合を除く)

工法 ※ 熱溶接工法 ・ 突付け (施工箇所：)

4 ビニル床タイル [G]

(19.2.2)

JIS記号	施工箇所	色柄	寸法 (mm)	特殊機能	厚さ (mm)	備考
・ FT		・ 無地 ・ 柄物	・ 300×300 ・ 450×450	・ 帯電防止 ・ 防滑性	※ 2.0 ・	
・ KT		・ 無地 ・ 柄物	・ 300×300 ・ 450×450	・ 帯電防止 ・ 防滑性	・ 2.0 ・	
・ FOA		・ 無地 ・ 柄物	・ 300×300 ・ 450×450	・ 帯電防止 ・ 防滑性	・ 2.0 ・	

○6 ビニル幅木

(19.2.2)

材質 ・ 硬質 ○ 軟質

厚さ (mm) ※ 1.5以上 ・ 高さ (mm) ※ 60 ・ 75 ・ 100

7 ゴム床タイル

(19.2.2)

色柄 ()
 厚さ(mm) ・ 3.0 ・ 4.5 ・ 6.0 ・ 9.0
 寸法(mm) ()

8 カーペット敷き

(19.3.3、4)(表19.3.1)

・ 織じゅうたん

種別	パイル形状	織り方	色柄等	帯電性	備考
・ A種 ・ B種 ・ C種	・ カットパイル ・ ループパイル ・ カット、ループ併用	・ ウェルトンカーペット ・ タフフェースカーペット ・ アクシミンターカーペット	・ 無地 ・ 柄物 (標準品)	・ 適用する ※ 人体帯電圧 3kv以下 ・ 適用しない	

下敷き材 ※反毛フェルト(JIS L 3204)の第2種2号 呼び厚さ 8mm ・

・ タフテッドカーペット

パイル形状	パイル長さ(mm)	工法	帯電性	備考
・ カットパイル	・ 5～7	※ 全面接着工法 ・ グリッパ-工法	・ 適用する ※ 人体帯電圧 3kv以下 ・ 適用しない	
・ ループパイル	・ 4～6			
・ レベルループパイル	・ 4			
・ カット、ループ併用	・			

下敷き材(グリッパ-工法の場合)

※ 反毛フェルト(JIS L 3204)の第2種2号 呼び厚さ8mm ・

・ ニードルパンチカーペット 厚さ(mm) ・
 帯電性 ・ 適用する ※ 人体帯電圧3kv以下
 ・ 適用しない

・ タイルカーペット

パイル形状	種別	施工箇所	寸法(mm)	総厚さ(mm)	備考
※ ループパイル	※ 第一種 ・ 第二種		※ 500×500 ・	※ 6.5 ・	
・ カットパイル	・ 第一種 ・ 第二種		※ 500×500 ・	※ 6.5 ・	
・ カット、ループ併用	・ 第一種 ・ 第二種		※ 500×500 ・	※ 6.5 ・	

タイルカーペットの敷き方 平場 ※ 市松敷き ・ 模様流し ・
 階段部分 ※ 模様流し ・ 市松敷き ・
 見切り、押え金物の材質、形状等 ※ 図示

9 合成樹脂塗床

(19.4.2、3) (表19.4.4、5)

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
・厚膜型塗床材 弾性ウレタン樹脂系塗床			※ 平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ ・ つや消し仕上げ
・厚膜型塗床材 エポキシ樹脂系塗床		・ 薄膜流し展べ 工法 ・ 厚膜流し展べ工法 ・ 樹脂モルタル工法	・ 平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ
・ 薄膜型塗床材			
・ アクリル樹脂塗床 (JIS K 5970)			工程 塗布量 (kg/m ²) ・ 表面仕上げ ・ 平滑 ・ 防滑 溶剤 ・ 水性色 ・ 溶剤系 ・ 無溶剤系 仕上げ色 ・ 標準色 ・

塗料のホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外 ・ 第三種

○ 10 フローリング張り

(19.5.2～7) (表19.5.1～5)

単層フローリング [G]

種類	工法	樹種	厚さ (mm)	大きさ (mm)	仕上塗装	間伐材等 の適用
・ フローリングボード 1等	・ 釘留工法 (根太張り工法)	※ なら ・	15	幅75 長さ500以上	・ 塗装品 ・ 無塗装品	・
	・ 釘留工法 (直張り工法)	※ なら ・	・ 12以上	幅75 長さ300以上		・
	・ 接着工法	※ なら ・	・ 12以上	幅75 長さ300以上		・
・ フローリングブロック 1等	・ 接着工法	※ なら ・	15	※ 303×303 ・	・ 塗装品 ・ 無塗装品	・
・ モザイクパケット 1等	・ 接着工法		・		・ 塗装品 ・ 無塗装品	・

複合フローリング [G]

種類	工法	樹種	厚さ/大きさ (mm)	種別	防湿処理	仕上塗装	間伐材等 の適用
・ 天然木化粧複合1種フローリング	・ 釘留工法 (根太張り) ・ 釘留工法 (直張り)	※ なら ・	板厚 ○ 12以上 ・ 板幅 ○ 75以上 ・ 板長さ ○ 900以上	・ A種 ・ B種 ・ C種	・ 行う ・ 行わない	・ 塗装品 ・ 無塗装品	・
○ 図示	○ 接着工法	※ なら ・					・

フローリング及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外

接着工法の場合の緩衝材 ※ 合成樹脂発泡シート ・

現場塗装仕上げ ・ 行う

※ ウレタン樹脂ワニス塗り ・ オイルステインの上、ワックス塗り ・ 生地そのままワックス塗り
・ 行わない

○ 11 畳敷き

(19. 6. 2) (表19. 6. 1)

種別

・ A種 ・ B種 ・ C種 ○ D種(畳床KT- ・ I ○ II ・ III ・ K ・ N)

下地の種類 ○ 標準仕様書様12. 6. 1による床組み

・ ポリスチレンフォーム床下地(ノンフロム[G])

畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発生がきわめて少ない材料を使用したものとする。

○ 12 せっこうボードその他ボード及び合板張り

(19. 7. 2、3) (表19. 7. 1)

種類	JIS記号	略号	厚さ(mm)、規格等
・ 硬質木毛セメント板[G]	HW	HW	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・
・ 中質木毛セメント板[G]	MW	MW	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・
・ 普通木毛セメント板[G]	NW	NW	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・
・ 硬質木片セメント板[G]	HF	HF	・ 12 ・ 15 ・ 18 ・ 21 ・
・ 普通木片セメント板[G]	NF	NF	・ 30 ・
○ けい酸カルシウム板	0. 8FK 1. 0FK	FK 化粧FK	タイプ2(無石綿) ○ 6(不燃) ・ 8(不燃)
・ けい酸カルシウム板 (化粧有)			タイプ2(無石綿) ・ 6(不燃) ・ 8(不燃)
・ ロックウール化粧吸音板	DR	DR	※ フラットタイプ (※ 9(不燃) ・ 12(不燃)) ・ 凹凸タイプ (※ 12(不燃) ・ 15(不燃))
・ ロックウール吸音ボード ¹ 号	RW-B	RW-B	・ 25 ・
・ グラスウール吸音ボード ² 1号32K	GW-B	GW-B	・ 25(ガラスクロス包) ・ 固定方法：化粧ボタ止め(縦横300程度)
○ せっこうボード	GB-R	GB-R	○ 9. 5(準不燃) ※ 12. 5(不燃) ・ 15(不燃)
・ 不燃積層せっこうボード ³ (化粧無)	GB-NC	GB-NC	(下張用) ※ 9. 5(不燃) ・
・ 不燃積層せっこうボード ³ (化粧有)	GB-NC	GB-NC(T)	(トラバーチン模様) ※ 9. 5(不燃) ・
○ シーリング ⁴ せっこうボード	GB-S	GB-S	○ 12. 5 (・ 不燃 ・ 準不燃)
○ 強化せっこうボード	GB-F	GB-F	・ 12. 5(不燃) ○ 21
・ せっこうラスボード	GB-L	GB-L	※ 9. 5(不燃) ・
・ 化粧せっこうボード ⁵ (木目)	GB-D	GB-D(W)	※ 12. 5(不燃) ・ 模様 (※ 桎目 ・ 板目) 専用下地材有り
・ 化粧せっこうボード ⁵ (トラバーチン模様)	GB-D	GB-D(T)	※ 9. 5(準不燃) ・
○ 普通合板[G]			表面の材種 ・ 生地、透明塗料塗り(ラワン合板程度) ・ 不透明塗料塗り(しな合板程度) 板面の品質 () 接着程度 (・ 1類 ・ 2類) 厚さ(mm) (・) ・ 防虫処理
・ 天然木化粧合板[G]			樹種名 (・) 接着程度 (・ 1類 ・ 2類) 厚さ(mm) (・) ・ 防虫処理

・特殊加工化粧合板[G]			化粧加工の方法 (・ オーバーレイ ・ プリント ・ 塗装) 表面性能 () タイプ 接着程度 (・ 1類 ・ 2類) 厚さ(mm) (・) ・ 防虫処理
○メラミン樹脂化粧板			JIS K 6903による (※ 1.2 ○ 3)
○ポリエステル樹脂化粧板			
・ ミディアムデンシティファイバーボード[G] ・ 単板張りパーティクルボード[G]	MDF	MDF	・ 3 ・ 7 ・ 9 ・ 12 ・ ・ 未研磨板 ・ 研磨板 ・ 10 ・ 12 ・ 15 ・ 18
・ 化粧パーティクルボード[G]			・ 単板オーバーレイ ・ プラスチックオーバーレイ ・ 塗装 ・ 10(難燃) ・ 12(難燃) ・
・ ハートボード(素地)[G]	HB	HB	・ 無研磨板 (・ スタンダード ・ テンパート) ・ 研磨板 (・ スタンダード ・ テンパート)
・ ハートボード(化粧)[G]			・ 内装用 ・ 外装用 ・ 2.5 ・ 3.5 ・ 5 ・ 7
・ インシュレーションボード[G]	IB	IB	A級(・ 天井仕上 ・ 内装仕上 ・) ・ 9 ・ 12 ・ 15 ・ 18

せっこうボード等の下地は図示による

遮音シール材 ○ 適用する (○ シーリング材 ○ ジョイントコンパウンド) ・ 適用しない

合板類、繊維板及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量

※ 規制対象外 ・ 第三種

合板類の張付け ・ A種 ※ B種

石膏ボードの目地工法 ・ 仕上げ表による

ホルムアルデヒドの放散量 ※ 規制対象外

○ 13 壁紙張り

ホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外 ・ 第三種

(19.8.2、3)

施工箇所	壁紙の種類					防火種別	備考
	紙	繊維	プラスチック	無機質	その他		
専有部内装	・	・	・	・	○	○ 不燃 ○ 準不燃 ・ 難燃	塩化ビニル
	・	・	・	・	・	・ 不燃 ・ 準不燃 ・ 難燃	
	・	・	・	・	・	・ 不燃 ・ 準不燃 ・ 難燃	
	・	・	・	・	・	・ 不燃 ・ 準不燃 ・ 難燃	

モルタル、プラスター面の素地ごしらえ ※ B種 ・ A種

コンクリート、ALC面の素地ごしらえ ※ B種 ・ A種

せっこうボード面の素地ごしらえ ※ B種 ・ A種

14 化粧塩ビシート張り

施工箇所	色柄			防火種別
	無地	石目	木目	
	・	・	・	※ 不燃 ・ 準不燃
	・	・	・	※ 不燃 ・ 準不燃

○ 15 断熱材[G]

(19.9.2、3)

断熱材のホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外 ・ 第三種
断熱材の打込み及び張付け

種類	厚さ (mm)	施工箇所
・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材		
・ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (スキン層なし)		
・ 硬質ウレタンフォーム断熱材		
・ フェノールフォーム断熱材		
・ ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材		
※ 押出法ポリスチレンフォーム保温材 (スキン層なし)	・ 保温板 (2種b)	・ 25
	○ 保温板 (3種b)	○ 35 ○ 60
	・	
・ A種硬質ウレタンフォーム保温材		
・ フェノールフォーム保温材 (3種2号を除く)		

- 断熱材現場発泡工法
断熱材の種類 ※ A種1 ・ B種1
厚さ (mm) ・ 25 ・ 30 ○ 35
- 現場発泡断熱材
(品質、性能、試験方法) 建築材料等品質性能表による

20章 ユニット及びその他工事

1 フリーアクセスフロア

(20.2.2)

施工箇所	工法	寸法 (mm)	高さ (mm)	耐震性能	所定荷重 (N)	表面仕上材	備考
	・ 置敷式 ・ 支柱調整式	・ 500×500		・ 1.0G ・ 0.6G	・ 3000 ・ 5000	・ 帯電防止床タイル ・ タイルカーペット	

寸法精度
※ 標準仕様書20.2.2(b)(5)(i)～(iii)による
厚さ ± 0.5mm
平坦度 ハネ周辺部 1.0mm以下
図心と各頂点を結ぶ線上部 2.0mm以下

表面仕上材は仕上表、品質、性能は19章による
構成材の材質 ・ アルミニウム製 ・ 鋼製 ・
スロープ及びボーダー ・ 製造所の仕様による ・ 図示

配線用取り出しハネ
フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合 ・ 20～30% ・
配線取り出し開口 ・ ハネ1枚につき40mm×80mm程度の開口1ヶ所以上 ・ 図示
空調用吹き出し(吸込み)ハネ ・ なし ・ あり (形式、施工箇所: 図示)
(性能、試験方法) 建築材料等品質性能表による

2 可動間仕切 (20.2.3)

構造形式	構成基材の種類		総厚さ (mm)	表面材			遮音性 (db/ 500Hz)	防火 性能
	スタート	パネル		材質	厚さ (mm)	パネル 表面仕上げ		
<ul style="list-style-type: none"> スタート式(内臓) スタート式(露出) スタートパネル式 パネル式 				<ul style="list-style-type: none"> 鋼板 	<ul style="list-style-type: none"> 0.6 0.8 	<ul style="list-style-type: none"> メラミン樹脂 焼付又は アクリル樹脂 焼付 焼付塗装 	<ul style="list-style-type: none"> 0 12 20 28 36 	<ul style="list-style-type: none"> 不燃

パネル内に取付ける建具 ・あり (※ 図示 ・) ・なし
 表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による
 パネル材料のホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外 ・第三種

3 移動間仕切 (20.2.4)

走行方向	操作方法	圧接装置の 操作方法	総厚さ (mm)	表面仕上げ材		遮音性 (db/ 500Hz)
				材質	パネル表面の 仕上げ	
<ul style="list-style-type: none"> 平行方向移動式 二方向移動式 	<ul style="list-style-type: none"> 手動式 電動式 部分電動式 	<ul style="list-style-type: none"> プッシュ式 ハンドル回転式 		<ul style="list-style-type: none"> 鋼板 	<ul style="list-style-type: none"> 焼付塗装 壁紙張り 	<ul style="list-style-type: none"> 36未満 36以上

パネル表面仕上げの壁紙張りの品質、性能 標準仕様書19章による
 遮音性能は、JIS A 6512に準拠し、中心周波数500Hzの音についての透過損失とするハンガーレールの取
 付け下地の補強
 ※ 取付け全重量の5倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強
 ・ 図示
 (品質、性能、試験方法) 建築材料等品質性能表による

4 トイレブース (20.2.5)

表面材の材質	脚部		ドアエッジ	
	形状	材質	形状	材質
<ul style="list-style-type: none"> メラミン樹脂系化粧板 ポリエステル樹脂系化粧板 	<ul style="list-style-type: none"> 幅木 支柱 なし 	<ul style="list-style-type: none"> アルミニウム製 ※ ステンレス製 	<ul style="list-style-type: none"> 標準 R 	<ul style="list-style-type: none"> アルミニウム製 ステンレス製 表面材と同材

(品質、性能、試験方法) 建築材料等品質性能表による
 トイレブースパネルのホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外 ・第三種

5 視覚障害者用床タイル (11.2.2) (19.2.2)

施工箇所	種類	寸法 (mm)	厚さ (mm)
屋内	塩化ビニル製	※ 300×300	※ 7.0
	磁器又はせつ器質タイル	※ 300×300	
	レジンコンクリート製	※ 300×300	
屋外	磁器又はせつ器質タイル	・ 300×300	※ 30
	レジンコンクリート製	・ 300×300	

ブロックパターンはJIS T 9251による

○ 6 階段滑り止め (20.2.6)

材種	幅 (mm)	取付け工法	端部フラットエッジ
<ul style="list-style-type: none"> ○ ステンレス製 (SUS304) ビニルタイ入り 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 約35 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 接着工法 埋込み工法 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 有り (・ ビニル製 ○ ステンレス製) 無し

○7 手摺り

材種	表面仕上げ	直径(mm)	取付箇所	備考
○ 集成材	○ クリアラッカー	○ 35 ・ 45	和室	転落防止
・ ステンレスパ イプ	・ HL			
・ 鋼製パ イプ	・ EP-G ・ SOP			
・ ビニル製ハントレール	・			

8 黒板、ホワイトボード (20.2.8)

種類	寸法(mm)	色彩	形式
・ 黒板 ※ 焼付け		※ 緑 ・ 黒	・ 平面 ・ 曲面 ・ スクリーン付き引分け
・ WB ・ ほうろう		・ 白	・ 平面 ・ 曲面 ・ スクリーン付き引分け

9 鏡 (20.2.9)

取付箇所 ()
寸法(mm) ・ 図示 ・
厚さ(mm) ※ 5 ・

○10 表示 (20.2.10)

区分	材質	寸法(mm)	厚さ(mm)	取付高さ(mm)	備考
・ 衝突防止表示 (・ 両面 ・ 片面)	・ ステンレス製 ・ 図示	・ 30 φ ・	※ 市販品 ・	※ 図示 ・	
○ 室名札 ・ ピクトグラフ ・ とびら番号	・ アクリル板 ○ アルミ製	※ 図示	・ 5 ・	※ 図示 ・	
・ 庁舎案内板 ・ 各階案内板 ・	・ アクリル板 ・	※ 図示	・ 5 ・	※ 図示 ・	

案内用図記号はJIS Z 8210による。

誘導標識、非常用進入口等の表示 ※ 消防法に適合する市販品 ・
色、書体、印刷等の種別、取付け形式等は図示による

11 ブラインド (20.2.12)

形式	操作方法	種類	スラットの材質	スラット幅(mm)	ボックス・レールの材種	寸法、取付箇所
・ 横形	・ 電動	—				
	・ 手動	※ ギヤ式 ・ コード式 ・ 操作棒式	※ アルミニウム合金製[G] ・	※ 25 ・	※ 鋼製 ・	※ 図示 ・
・ 縦形	・ 電動	—				
	・ 手動	※ 1本操作コード式 ・ 2本操作コード式	・ アルミスラット ・ クロススラット	・ 80 ・ 100	・ アルミニウム合金製 ・	※ 図示 ・

アルミスラット 焼付け塗装仕上げ

クロススラット 消防法で定める防災性能の表示がある特殊樹脂加工

ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合[G]

12 ロールスクリーン (20.2.13)

材種	操作方式	遮光性能	寸法(mm)	取付箇所	備考
・ ポリエステル ・	・ 電動式 ・ スプリング式 ・ チェーン式	・ 1級 ・ 2級 ・ 3級	・ 図示 ・	・ 図示 ・	

13 カーテン

(20.2.14)

形式		開閉操作	ひだの種類	きれ地の種別、品質、特殊加工等	取付箇所	備考
・シングル ・ダブル	・片引き ・引分け	・手引き ・ひも引き ・電動	・フランスひだ ・箱ひだ、つまひだ ・プレーンひだ、片ひだ			

ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合[G]
暗幕カーテンの両端、上部及び召合せの重なり ※ 300mm以上

○ 14 カーテンレール

(20.2.14)

材種	・ アルミニウム及びアルミニウム合金の押出成型材 ○ ステンレス製
形式	・ シングル ○ ダブル ・ 片引き ○ 引分け
強さによる区分	・ 10-90
仕上げ	※ アルマイト
形状	※ 角形

15 ブライントボックス及びカーテンボックス

材質	・ 集成材（仕上げ：） ・ アルミニウム製 表面処理（・ B-1 ・ B-2 ・ C-1 ・ C-2） （・ アンバー ・ ブロンズ ・ ブラック系 ・ ステンカラー） ・ 鋼製（仕上げ：）
----	--

○ 16 天井点検口

材種	寸法	形式		外枠	内枠
※ アルミニウム製 ・	○ 450×450 ・ 600×600	○ 一般形	・ 屋内外用 ○ 屋内用	○ 額縁タイプ ・ 目地タイプ	○ 額縁タイプ ・ 目地タイプ
		・ 気密形			

(品質、性能、試験方法)建築材料等品質性能表による

17 床点検口

材種	寸法	形式		備考
・ アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 鋼製	・ 450×450 ・ 600×600 ・	・ 一般形 ・ 密閉形	・ 屋内外用 ・ 屋内用	・ 鍵付き

一般形：パッキンを装着しないもの、又はがたつき防止用パッキンを装着したもの
密閉形：ボルト、ナット等のメカニカル構造にパッキンを装着したもの
(品質、性能、試験方法)建築材料等品質性能表による

18 天井見切り縁

材種	○ 塩化ビニル製	・ アルミニウム製
----	----------	-----------

○ 19 流し台、コンロ台、吊戸棚

製品	・ 優良住宅部品(BL製品)	・ 非BL製品
トップ材質	・ ステンレス	○ 人工大理石

20 水切り棚

材質	・ ステンレス製(SUS304)	市販品	・
----	------------------	-----	---

○ 21 洗面カウンター

材質	・ 人工大理石	・ マシン樹脂化粧化粧板(心材：集成材)
形状	※ 図示	
奥行き	・ 約450mm	・ 約600mm ○ 図示
ホルムアルデヒドの放散量	※ 規制対象外	・ 第三種

○ 22 木製造付け家具

ホルムアルデヒドの放散量 ※ 規制対象外 ・ 第三種
材料に合板、集成材を使用する場合は、内装工事のせっこうボード、その他ボード及び合板張りによる

23 旗竿

材種及び形式 アルミニウム製テープ付き(※ ハンドル式 ・ ロープ式)
脚部 ※ 埋込式 ・ ベース式
設定風速 ※ 60m/sec(地上用)

24 車止めさく

形式	材種	柱径、肉厚(mm)	高さ(m)	備考
・ 上下式鎖内蔵式 (・ 標準品 ・ スプリング式) ・	・ ステンレス製 ・	・ φ76.3 t=2.0 ・	・ GL+700 ・	

○ 25 フェンス

フェンスの種類 ・ ビニル被覆エキスパントフェンス ○ 樹脂塗装メッシュフェンス ・ 鋼管フェンス
・ アルミフェンス ・
高さ ○ 図示 ・

○ 26 敷地境界石標

種類 ※ コンクリートブロック製(市販品) ・ 花こう石類(文字記号等入り)
設置方法
根切り底を突き締めたうえ、厚さ60mmの砂利地業を行い、コンクリートで根巻きして建て込む。建て込みは監督員の立ち会いのもと行う。
コンクリートの調合 容積比 セメント1：砂2：砂利4程度

21章 排水工事

○ 1 屋外雨水排水

(21.2.1、2)(表21.2.1、2)

排水管用材料

材種	管の種類	形状	呼び径	備考
・ 遠心力鉄筋コンクリート管	※ 外圧管 (1種)	・ B形管 ・	※ 図示 ・	
○ 硬質ポリ塩化ビニル管	○ VP		※ 図示 ・	
	○ VU		※ 図示 ・	
	・ RS-VU[G]		※ 図示 ・	

基床の厚さ及び種類 ・ 図示 ・
硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料 ※ 接着剤 ・
側塊の形状及び寸法 ○ 図示 ・
排水柵の種類 ○ 図示 ・
砂地業に用いる材料 ※ 標準仕様書21.2.1(g)(1)による ・ 図示
砂利地業に用いる材料 ※ 標準仕様書21.2.1(g)(2)による ・ 図示
コンクリート基礎等に用いる材料
※ 標準仕様書6.14により、設計基準強度は18N/mm²とする。ただし、コンクリートが簡易な場合の調合(容積比)はセメント1：砂2：砂利4程度とする。
・ 図示
凍上抑制層に用いる材料 ・
砂の粒度試験 ・ 行う
○ 行わない
埋め戻し用材料 ・ A種 ※ B種 ・ C種 ・ D種

2 鋳鉄製ふた

(21. 2. 1)

名称	種類	適用荷重	鍵	備考
鋳鉄製マンホールふた	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水封形 ・ 簡易密閉形 (パッキン式) ・ 密閉形 (テーパ、パッキン式) ・ 中ふた付き密閉形 (テーパ、パッキン式) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ T-2用 ・ T-6用 ・ T-20用 ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 有り ・ 無 	左記以外の品質等は(公社)空気調和衛生工学会SHASE-S209による

○3 グレーチング

(21. 2. 1)

材質	形式	用途	適用荷重	メインバーピッチ	亜鉛めっき(付着量)	上面形状
○ 鋼製	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受枠付き、ボルト固定 ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 溝ふた (横断用) ○ 溝ふた (側溝用) ・ 柵ふた用 ・ U字溝用 	○ 歩行用 <ul style="list-style-type: none"> ・ T-2用 ・ T-6用 ・ T-14用 ・ T-20用 	○ 細目 <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 普通目 ・ 細目 	<ul style="list-style-type: none"> ・ () ・ () 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 凹凸形 ・ ・ 平形 ・
・ ステンレス製	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受枠付き、ボルト固定 ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 溝ふた (横断用) ・ 溝ふた (側溝用) ・ 柵ふた用 ・ U字溝用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩行用 ・ T-2用 ・ T-6用 ・ T-14用 ・ T-20用 	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 凹凸形 ・ ・ 平形 ・

(品質、性能、荷重試験方法) 建築材料等品質性能表による

○4 街きよ、縁石、側溝

(21. 3. 1、2) (表21. 3. 1)

街きよ、縁石、側溝

種類	形状、寸法
○ 縁石	○ 図示
・ L形側溝	・ 図示
・ U形側溝	・ 図示
・ U形側溝ふた	・ 図示
・	・ 図示

地業の材料 ※ 標準仕様書4. 6. 2(a)による ・ 図示

砂利地業の厚さ ※ 100 (mm) ・ 図示

コンクリート基礎等に用いる材料

※ 標準仕様書6. 14により、設計基準強度18N/mm2とする。ただし、コンクリートが簡易な場合の調合(容積比)はセメント1：砂2：砂利4程度とする

・ 図示

22章 舗装工事

○1 路床

(22. 2. 2、3、5) (表22. 2. 1)

路床の材料

種別	材料	厚さ(mm)
○ 盛土	○ A種 ○ B種 ・ C種 ・ D種 ・ 建設汚泥から再生した処理土[G]	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図示 ・
・ 凍上抑制層	<ul style="list-style-type: none"> ・ 再生クラッシャーラン[G] ・ クラッシャーラン ・ 切込み砂利 ・ 砂 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図示 ・
・ フィルター層	<ul style="list-style-type: none"> ・ 砂 ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図示 ・

路床安定処理

・ 添加材料による安定処理

種類 ・ 普通ポルトランドセメント ・ 高炉セメントB種 ・ フライッシュセメントB種
 ・ 生石灰 () ・ 消石灰 ()

添加量 kg/m² (目標CBR ※ 5以上 ・)

目標CBRを満足する添加量の確認方法 ・ 安定処理土のCBR試験 ・

・ ジオテキスタイル

単位面積質量 ・ 60g/mm²以上 ・

厚さ(mm) ・ 0.5～1.0 ・

引張強さ ・ 98N/5cm(10kgf/5cm)以上 ・

透水係数 ・ 1.5×10⁻¹cm/sec以上 ・

試験 砂の粒度試験 ・ 行う ○ 行わない

路床土の支持力比(CBR)試験 ・ 行う ○ 行わない

現場CBR試験 ・ 行う ○ 行わない

路床の締固め度の試験 ○ 行う ・ 行わない

○ 2 路盤

(22.3.2、3、5)

舗装の種類	路盤の厚さ(mm)		路盤材料
	車路及び 駐車場	歩行者用 通路	
○ アスファルト舗装	※ 図示	※ 図示	・ 砕石クラッシャー ・ 砕石粒度調整砕石 ○ 再生材クラッシャー[G] ・ 再生材粒度調整砕石[G] ・ クラッシャー鉄鋼スラグ[G] ・ 粒度調整鉄鋼スラグ[G] ・ 水硬性粒度調整鉄鋼スラグ[G]
・ カー舗装	※ 図示	※ 図示	
・ コンクリート舗装	※ 図示	※ 図示	
・ 透水性アスファルト舗装	※ 図示	※ 図示	
・ 排水性アスファルト舗装	※ 図示	—	
・ インターロッキングブロック舗装	※ 図示	※ 図示	
・ 転圧コンクリート舗装	※ 図示	—	
・ コンクリート平板舗装	—	※ 図示	
・ 舗石舗装	—	※ 図示	

路盤の締め固め度試験 ※ 行う ・ 行わない

○ 3 アスファルト舗装

(22.4.2～6)(表22.4.4)

アスファルト舗装の構成及び厚さ ※ 図示 ・

材料

アスファルト ○ 再生アスファルト[G] ・ ストレートアスファルト

骨材 ・ 砕石 ○ アスファルトコンクリート再生骨材[G]

加熱アスファルト混合物等の種類

区分	地域	種類
表層	※ 一般地域	※ 密粒度アスファルト混合物(13) ・ 細粒度アスファルト混合物(13)
	・ 寒冷地域	※ 密粒度アスファルト混合物(13F)

シーリングの施工 ○ 行う ・ 行わない

試験 アスファルト混合物等の抽出試験 ○ 行う ・ 行わない

舗装の平たん性 ※ 通行の支障となる水溜まりを生じない程度

○ 4 コンクリート舗装

(22.5.2～4、6)(表22.5.1、3)

コンクリート舗装の構成及び厚さ

舗装の種類	部位	構成	厚さ(mm)
コンクリート舗装	車路及び駐車場	・ 図示	・ 図示 ・
	歩行者用通路	○ 図示	※ 70 ○ 図示

縁部立下り寸法等 ・ 図示

材料

コンクリート ○ 標準仕様書表22.5.1による ・

早強セメント ・ 使用する ・ 使用しない

注入目地材料 ※ 低弾性タイプ ・ 高弾性タイプ

目地 種類、間隔、構造 ※ 標準仕様書表22.5.3及び図22.5.1による ・ 図示

5 カラー舗装 (22.6.2～4)

カラー舗装の構成及び厚さ

カラー舗装の種類		部位	構成	厚さ (mm)
・ 加熱系	・ アスファルト混合物	・ 車路及び駐車場 ・ 歩行者用通路	・ 図示	・ 図示 ・
	・ 石油樹脂系混合物			
・ 常温系	・			

常温系カラー舗装の着色部の下部 ・ アスファルト舗装 ・ コンクリート舗装

加熱系混合物に添加する材料 ・ 着色骨材 () ・ 自然石 ()

配合 結合材に石油樹脂を使用する場合の顔料添加量 ・

ニート工法及び塗布工法の配合等 ・

6 透水性アスファルト舗装 [G] (22.7.2、3、6)

構成 ・ 図示 ・

材料

骨材 ・ 道路用碎石

・ アスファルトコンクリート再生骨材 [G]

試験 開粒度アスファルト混合物等の抽出試験 ・ 行う ・ 行わない

舗装の平坦性 ※ 著しい不陸がないもの ・

7 ブロック系舗装 (22.8.2、3)

・ コンクリート平板舗装

種類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	目地材	備考
※ 普通平板 (N) ・ 透水平板 (P) ・	※ 300角 ・	・ 60	※ 砂 ・ モルタル	表面加工 ・ 研ぎ出し ・ 洗い出し ・ たたき出し

歩道部に使用するコンクリート平板は [G] (再生材料を用いた舗装用ブロック) とする。

透水平板は [G] (透水性コンクリート) とする。

仕上り面の平坦性 ※ 歩行に支障となる段差がないものとし、コンクリート平板間の段差は3mm以内

・

・ インターロッキングブロック舗装

種類	部位	厚さ (mm)	曲げ強度 (N/mm ²)	備考
※ 普通ブロック (N) ・ 透水性ブロック (P) ・	車路及び駐車場	※ 80 ・	※ 5.0 ・	色彩、表面加工 ・ 標準品 ・
	歩行者用通路	※ 60 ・	※ 3.0 ・	

歩道部に使用するコンクリート平板は [G] (再生材料を用いた舗装用ブロック) とする。

透水平板は [G] (透水性コンクリート) とする。

仕上り面の平坦性 ※ 歩行に支障となる段差がないものとし、コンクリート平板間の段差は3mm以内

・ 舗石舗装

種類	形状・寸法 (mm)	厚さ (mm)	施工方法	基層	基層の厚さ (mm)
※ 小舗石 (花こう岩) ・	・ 図示 ・	・ 80 ・	・ うろこ張り ・	・ コンクリート舗装	※ 70 ・
				・ アスファルト舗装	※ 50 ・

仕上り面の平坦性 ※ 歩行に支障となる段差がないものとし、舗石間の段差は3mm以内

- ・ジオテキスタイル
- 単位面積質量 ・ 60g/mm²以上 ・
- 厚さ(mm) ・ 0.5～1.0 ・
- 引張強さ ・ 98N/5cm(10kgf/5cm)以上 ・
- 透水係数 ・ 1.5×10⁻¹cm/sec以上 ・

○8 砂利敷き (22.9.2)

種別

- ・ A種 (施工範囲 : ・ 図示 ・ 通路 ・)
- B種 (施工範囲 : ○ 図示 ・ 建物周囲 ・)

○9 路面表示用塗料

路面表示用塗料はJIS K 5665(路面標示用塗料)による

種類	施工	適用	色	幅(mm)	塗布厚さ(mm)
・ 1種[G]	常温	液状	○ 白	○ 150	○ 1.5
・ 2種[G]	加熱		・	・ 100	・
※ 3種1号	熔融	粉体状			

[G]低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料

23章 植栽及び屋上緑化工事

1 植栽地の確認等 (23.1.3)

- 土壌の水素イオン濃度指数(pH)試験 ・ 行う ・ 行わない
- 水溶性塩類(EC)の試験 ・ 行う ・ 行わない

2 植栽基盤の整備 (23.2.2、4)

植栽	工法	有効土層の厚さ(cm)	整備範囲	土壌改良材
・ 樹木	※ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種	樹高12m以上 (※ 100 ・ 120 ・ 150) 樹高7m以上～12m未満 (※ 80 ・ 100) 樹高3m以上～7m未満 (※ 60 ・ 80) 樹高3m未満 (※ 50 ・ 60)	・ 葉張り部分 ・ 植栽部分 ・ 図示 ・	・ 適用する ・ 適用しない
※ 芝、地被類	※ B種 ・	※ 20 ・	・ 植栽部分 ・ 図示 ・	・ 適用する ・ 適用しない

植栽基盤の排水設備 ・ 設ける (※ 図示 ・) ・ 設けない

3 植込み用土 (23.2.3)

- ※ 現場発生土の良質土 ・ 客土

4 土壌改良材 (23.2.3)

- ・ バーク堆肥[G]
施工箇所 ※ 植栽範囲 ・ 図示
使用量 植栽基盤面積1m²あたり (・ 50L ・)
- ・ 汚泥発酵肥料(下水汚泥コンポスト)
施工箇所 ※ 植栽範囲 ・ 図示
使用量 植栽基盤面積1m²あたり (・ 10L ・)
- 材料

「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第1の基準に適合する原料を使用したもので、植害試験の調査の結果、害が認められないものとする

5 樹木 (23.3.2)

- 樹種、寸法、株立数等 ※ 図示 ・

6 支柱 (23. 3. 2、 3)

支柱材 ※ 丸太(間伐材) [G] ・ 真竹 ・
 防腐処理方法 ※ 加圧式防腐処理丸太材 ・
 形式 ・ 図示

7 幹巻き用材料 (23. 3. 2)

材料 ※ 幹巻き用テープ ・ わら、こも

8 芝 (23. 4. 2、 3)

種類 ※ コライシバ ・ ノシバ ・
 芝張りの工法 平地 ※ 目地張り ・ べた張り
 法面 ・ 目地張り ※ べた張り

9 吹付けは種 (23. 4. 2)

種子の種類	発芽率	種子の量(g/m2)	備考
※ 洋芝類(採取後2年以内)	※ 発芽率80%以上		
・			

10 地被類 (23. 4. 2)

樹種	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数	芽立数
・	・	・	・
・	・	・	・

11 新植、移植樹木、芝等の枯保証 (23. 3. 4、 6) (23. 4. 7)

新植樹木(芝張り、吹付けは種及び地被類を含む)の枯補償の期間

※ 引渡しの日から1年 ・ 無し

移植樹木の枯損処置を行う期間

※ 引渡しの日から1年 ・ 無し

12 屋上緑化[G]

植栽基盤及び材料 (23. 5. 2～4)

・ 屋上緑化システム

土壌層の厚さ ・ 図示 ・

排水層 ・ 軽量骨材 (層の厚さ：) ・ 板状成型品

植込み用土 ※ 改良土 ・ 人工軽量土

樹木の樹種並びに種類、寸法、株立数、寸法等 ※ 図示 ・

見切り材、舗装材、水抜き管、マルチング材等 ※ 図示 ・

(品質、性能、試験方法)建築材料等品質性能表による

・ 屋上緑化軽量システム

芝及び地被類の樹種並びに種類等 ※ 図示 ・

見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 ※ 図示 ・

(品質、性能、試験方法)建築材料等品質性能表による

工法 建築基準法に基づき定まる (※ 1 ・ 1. 15 ・ 1. 3) 倍の風圧力に対応した工法

支柱 ・ 設置する (形式 ・ 図示 ・)

かん水装置 ・ 設置する (種類 ・)

別表

材料名称		
仮設工事 ・ ・ 土工事 ※ 埋め戻し、盛土材 ・ ・ 地業工事 ・ 砕石 ※ 杭 ・ 杭施工混和材 ○ 溶接材料 ○ 杭頭補強筋 ○ 地盤改良材 ・ ・ 鉄筋工事 ※ 鉄筋 ・ 溶接金網 ・ スリーブ補強筋（既製品） ・ ・ コンクリート工事 ・ 型枠 ・ 特殊型枠（フラットデッキ他） ※ コンクリート ○ セメント ○ 骨材 ○ 水 ○ 混和材 ・ ・ 鉄骨工事 ◎ ※ 鋼材 ○ 高力ボルト、普通ボルト ○ アンカーボルト ○ スタッド ○ デッキプレート ○ 溶接材料 ○ 耐火被覆材 ○ 溶融亜鉛めっき ・ ・ コンクリートブロック他工事 ・ コンクリートブロック ・ ALCパネル ◎ ○ 押出成形セメント板 ・ ・	防水工事 ○ 防水材 ○ 断熱材、接着剤 ○ シーリング材 ・ ・ 石、タイル工事 ・ 石材 ・ 取付金物 ○ タイル ・ タイル張付け用材料 ・ ・ 木工事 ○ 木材 ○ 集成材 ・ ・ 屋根、とい工事 ・ 長尺金属板 ・ 折板 ・ 粘土瓦 ○ とい ・ ・ 金属工事 ○ 金属製品 ○ 軽量鉄骨天井下地 ○ 軽量鉄骨壁下地 ・ あと施工アンカー ・ ・ 左官工事 ○ モルタル ・ セルフレベリング材 ○ 仕上塗材 ○ ロックウール ・ ・ 建具工事 ○ アルミ製、鋼製建具 ○ 木製建具 ○ 建具用金物 ○ ガラス ・ シャッター ・ ・ カーテンウォール工事 ・ ・	塗装工事 ○ 塗料 ・ ・ 内装工事 ○ ビニル床シート ・ カーペット ・ 合成樹脂塗床材 ○ フローリング ○ 畳 ○ せっこうボード ○ 壁紙 ○ 断熱、防露材 ・ ・ ユニット、その他工事 ・ フリーアクセスフロア ・ 可動間仕切 ・ トイレブース ・ ・ 排水工事 ○ 排水管 ○ 排水枘 ・ ・ 舗装工事 ○ 路床 ○ 路盤材 ○ アスファルト ○ コンクリート ・ ブロック系舗装材 ・ ・ 植栽工事 ・ 樹木 ・ 芝、吹付けは種、地被類 ・ 支柱材 ・ 肥料、土壌改良剤 ・ ・

監督員の検査を受けて使用すべきとされた材料であっても、設計図書に定めるJIS又はJASのマーク表示のある材料並びに規格、基準等の規格証明書が添付された材料で、監督員の承諾を受けた場合は、設計図書に定める品質及び性能を有するものとして、取り扱うことができる。

◎：製作工場において監督員が検査を行うもの。